明治村通信

総目次　第一号～第三〇〇号

博物館 明治村

逐号目次……2
執筆者索引……41

■この総目次は、博物館明治村機関誌『明治村通信』の第一号（昭和45年1月号）から第三〇〇号（平成7年6、7、8月号・終刊号）までに掲載された論考、随筆、その他を収録した。

■題名は可能な限り忠実に原本に従ったが、体裁の統一を図るため、一部訂正を加えた場合がある。また、漢字については原則として当用漢字を用いた。

■執筆者索引の下段にゴシック体で示された数字は掲載の号数を表す。

逐号目次

第一号（昭和45年1月号）

創刊の言葉　谷口　吉郎
明治村と犬山　明治村縁起（一）　木村　毅
アメリカ最古の日本木造建築　井上　靖
明治の資料
もしも明治村がなかったら　明治村の事始　菊池　重郎
明治村の機動性　藤岡　通夫
明治村茶会の記　田山　方南
明治村印象　夢の明治村　小堀　杏奴
清親の散歩　小林　哥津
西郷従道邸　明治村の建物　一　野田宇太郎
若い人々のための明治村物語（一）　おとぎのくに　野田宇太郎
明治村を訪れて　柘植　正樹
随想　関野　克
菅島灯台のあたり　城戸　久
明治の意義　徳川　義親
明治村略年譜

第二号（昭和45年2月号）

発心　明治村縁起（二）　谷口　吉郎
品川燈台　高橋邦太郎
いつまでも明治「村」で　長谷川　泉
鷗外・漱石旧宅　明治村の建物　二　野田宇太郎
若い人々のための明治村物語（二）　友情と建設　野田宇太郎
日本最古の工業雑誌　—中外工業新報と工部省工作局　菊池　重郎

第三号（昭和45年3月号）

明治の年号　—明治村の意義—　木村　毅
明治の唱歌　大悟法利雄
感懐あれこれ　井上萬壽藏
聖ヨハネ教会堂　明治村の建物　三　野田宇太郎
若い人々のための明治村物語（三）　山湖のささやき　野田宇太郎
明治初期の万国博関係書　1　春山　行夫
古いということ　—明治村との因縁—　山田　忠男

第四号（昭和45年4月号）

時の流れ　徳田　一穂
ミスティック港　—捕鯨時代の昔を偲んで—　斎藤　襄治
工部省品川硝子製造所　明治村の建物　四　関野　克
若い人々のための明治村物語（四）　湖底の歴史をたずねて　野田宇太郎
明治初期の万国博関係書　2　春山　行夫
漱石邸　徳川　夢声
明治と明治文化　岡野他家夫

第五号（昭和45年5月号）

明治の昔　末廣　恭雄
明治村をたずねて　久松　潜一
明治村参観記　加茂　儀一
東松家住宅　明治村の建物　五　内藤　昌
若い人々のための明治村物語（五）　道　野田宇太郎
明治初期の万国博関係書　3　春山　行夫
明治村にのぞむ　吉田　光邦

第六号（昭和45年6月号）

札幌の思い出　古谷　綱武
ハワイ移民記念館をめぐる思い出　横山　春一
ナンタケットの思い出〈上〉　斎藤　襄治
京都の電気鉄道　明治村の建物　六
若い人々のための明治村物語（六）　明治村がなかったら　野田宇太郎
明治初期の万国博関係書　4　春山　行夫
美貌の変遷　村松　嘉津

第七号（昭和45年10月号）
歌と音でつづる明治　添田　知道
ナンタケットの思い出〈下〉　斎藤　襄治
最後の波瀾　渋沢　秀雄
はかない思出　森　銑三
若い人々のための明治村物語（七）
明治村の夜　野田宇太郎
明治初期の万国博関係書　5　春山　行夫
犬山の思い出　手塚　竜麿

第八号（昭和45年11月号）
明治村あれこれ　中平　解
明治の外国婦人　高梨　健吉
アンパンと洋服　遠藤　武
明治の音楽（その一）　山田　昌弘
若い人々のための明治村物語（八）
ガス灯　野田宇太郎
明治初期の万国博関係書　6　春山　行夫
思い出は佗し、されどまた楽し　料治　熊太

第九号（昭和45年12月号）
明治村で一番親しい建物　石田幹之助
明治の音楽（その二）　山田　昌弘
煉瓦の壁（上）　菊池　重郎
若い人々のための明治村物語（九）
鷗外と漱石が住んだ家　野田宇太郎
明治の女官歴訪記〈一〉　渡辺　茂雄

第一〇号（昭和46年1月号）
明治と外国文学　1
英米文学と文明開化　太田　三郎
明治の音楽（その三）　山田　昌弘
煉瓦の壁（下）　菊池　重郎
若い人々のための明治村物語（一〇）
人力車の話　野田宇太郎
明治の女官歴訪記〈二〉　渡辺　茂雄
明治村で一番親しい建物（追記）　石田幹之助

第一一号（昭和46年2月号）
明治から大正へ　小堀　杏奴
筑前の明治の童歌　原田　種夫
明治と外国文学　2
明治文学とイタリア　剣持　武彦
若い人々のための明治村物語（十一）
汽車ポッポ　野田宇太郎
明治の女官歴訪記〈三〉　渡辺　茂雄

第一二号（昭和46年3月号）
西園寺公望と「蜻蛉集」　高橋邦太郎
明治村に寄贈された西園寺公のフランス書　国田　路雨
西園寺公望略年譜
明治と外国文学　3
明治期におけるフランス文学（一）
―明治三一年まで―　富田　仁
若い人々のための明治村物語（十二）
小泉八雲と乙吉の家　野田宇太郎
明治の女官歴訪記〈四〉　渡辺　茂雄

第一三号（昭和46年4月号）
モースと蜷川式胤と
ハーンと焼津
―山口乙吉をめぐって―　杉山　二郎
速川　和男
若い人々のための明治村物語（十三）
西園寺公望と雨声会　野田宇太郎
人力車　ポール・ブルム
訳　斎藤　襄治

第一四号（昭和46年5月号）
明治の蒸気機関車　篠原　正瑛
明治の銭湯　武田　勝蔵
鍼力ということ（上）　菊池　重郎
若い人々のための明治村物語（十四）
黒いポストのある郵便局　野田宇太郎

明治期におけるフランス文学（二）　松田　穣

第一五号（昭和46年6月号）
外山正一博士とその遺族　佐藤　良雄
「万国史」のことなど　佐藤　孝己
若い人々のための明治村物語（十五）
ちんちん電車　野田宇太郎
西郷邸と山崎兌さん　藤岡　通夫
鉞力ということ（中）　菊池　重郎
訳語「馬口鉄」「鉄葉」の出現

第一六号（昭和46年7月号）
大店　―明治の風物―　渡辺　晏孝
歌・明治村　中河　幹子
谷口吉郎氏と土川元夫氏に捧ぐ
明治村内所在古墳について　三木　文雄
若い人々のための明治村物語（十六）
西洋館　野田宇太郎
鉞力ということ（下）　菊池　重郎
明治生まれの漢字「鉞力」

第一七号（昭和46年8月号）
明治時代と翻訳・翻案　吉武　好孝
―近代化の歩み―
同志社における明治の建物　岡本　昌夫
若い人々のための明治村物語（十七）
教会　野田宇太郎
徳川夢声さんを悼む　谷口　吉郎
夢声さんを偲んで　渋沢　秀雄
―夢声老と明治村と私―
村長白書　徳川　夢声

第一八号（昭和46年9月号）
聖ヨハネ教会危ふかりき　外村吉之助
明治村再訪記　斎藤　一寛
横浜の仏語伝習所　富田　仁
若い人々のための明治村物語（十八）
役所と学校　野田宇太郎
明治村七年の移築建物（上）　菊池　重郎
昭和四十六年に着工する建物

第一九号（昭和46年10月号）
ぐらんとひのき　ぐらんとぎょくらん　八木　佐吉
若松賤子のこと　小玉　晃一
品川燈台と菅島燈台　岡沢　秀甫
若い人々のための明治村物語（十九）
銀行　野田宇太郎
明治村七年の移築建物（中）　菊池　重郎
昭和四十六年に着工する建物
明治村の小鳥たち　宮外　武

第二〇号（昭和46年11月号）
明治の書名・人名　品川　力
明治期の仏学者　―入江文郎―　田中　貞夫
近代文学の味　文学にちなんだ菓子　八木福次郎
明治文庫を造ろう　池田　哲郎
―明治村への提言―
若い人々のための明治村物語（二十）
札幌電話交換局　野田宇太郎
明治村七年の移築建物（下）　菊池　重郎
昭和四十六年に着工する建物

第二一号（昭和46年12月号）
冒険旅行　石中　象治
明治期の仏学者　―村上英俊（1）―　田中　貞夫
グリネルあれこれ　福田　光治
中西部のある小さな町
若い人々のための明治村物語（二十一）
明治村の民家と商家　野田宇太郎
幸田露伴自撰年譜　明治末まで

第二二号（昭和47年1月号）
明治の横浜　小玉　敏子
―宣教師の活動を中心に―
明治期の仏学者　―村上英俊（2）―　田中　貞夫
漱石とホイットマンにおける「花のイメージ」　鈴木　保昭

若い人々のための明治村物語（二十二）　野田宇太郎
芝居小屋
小山内薫とブランダー・マシウズ　浅田　寛厚
鉄力ということ（補遺）　菊池　重郎
—銀座煉瓦街とブリッキ

第二三号（昭和47年2月号）
明治の代用小学校　手塚　竜麿
明治の頃の初午祭　渡辺　晏孝
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」　富田　仁
—近代日本比較文学史への試み Ⅰ—
若い人々のための明治村物語（二十三）　野田宇太郎
兵舎と病院
東京駅巡査交番所（追記）　菊池　重郎
—日本一の交番ということ

第二四号（昭和47年3月号）
開村七周年・幸田露伴展記念号
七周年を迎えて　谷口　吉郎
露伴と恋愛　成瀬　正勝
露伴と紅葉　—紀行文から—　岡　保生
京都大学における幸田露伴先生の講義　江馬　務
「西遊記」と「法顕伝」　植村　清二
露伴翁の愛　松下　英磨
私が持っている露伴先生の筆蹟など　塩谷　贊
露伴と写真　川崎　宏
古今小説談　勝　海舟
若い人々のための明治村物語（二十四）　野田宇太郎
幸田露伴の家
蝸牛庵の移築にあたって　安藤　守人
露伴翁の将棋　木村　義雄
詩・露伴の梅　野田宇太郎
幸田露伴略年譜　川崎　宏
幸田露伴展展示略目録

第二五号（昭和47年5月号）
大隈重信展・第六回茶会記念号
御挨拶　谷川　徹三
大隈重信を偲んで　村井　資長
大隈寸描　木村　毅
大隈総長の思出　野田　武夫
大隈重信の思出　荒垣　秀雄
大隈老侯の想い出　原　安三郎
大隈侯あれこれ　三宅　正一
大隈重信侯と国鉄創業について　井上萬壽藏
民衆政治教育者・大隈重信　川崎　秀二
大隈重信と早稲田大学　尾崎　一雄
若い人々のための明治村物語（二十五）　野田宇太郎
監獄と交番
第六回明治村茶会の期日と担当者　田山　方南
大隈重信略年譜
大隈重信展出品目録

第二六号（昭和47年7月号）
明治の言葉　村松　嘉津
幼き日の旅日記　帆足図南次
ジェームズと明治丸　手塚　竜麿
若い人々のための明治村物語（二十六）　野田宇太郎
ハワイ移民記念館
第六回明治村茶会の記　田山　方南

第二七号（昭和47年8月号）
明治村の夏目漱石初版本由緒　山田　朝一
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」　富田　仁
—近代日本比較文学史への試み Ⅱ—
若い人々のための明治村物語（二十七）　野田宇太郎
灯台
鉄の柱とウォートルス（上）　菊池　重郎
明治村の古時計　—修理復元の記録—　井上　信夫
明治の街の物売り　渡辺　晏孝

第二八号（昭和47年9月号）
思案ひとつ　里見　弴
牛鍋雑談　渋沢　秀雄
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」　富田　仁
—近代日本比較文学史への試み Ⅲ—

若い人々のための明治村物語（二十八）
工場　野田宇太郎
蘆花雑感　小玉　晃一
鉄の柱とウォートルス（中）　菊池　重郎

第二九号（昭和47年10月号）
汽車通学　渋沢　秀雄
明治の鉄道展について　井上萬壽藏
鉄の柱とウォートルス（中の2）　菊池　重郎
雑誌「明治文化研究」の復刻に想ふ　野田宇太郎
東洋回帰の画家たち
—忘れられる明治の漫画—　関川左木夫
鉄道錦絵について　井上萬壽藏
聖ヨハネ教会
—解体と復原など（上）—　近藤　豊

第三〇号（昭和47年11月号）
聖ヨハネ教会
—解体と復原など（下）—　近藤　豊
筑後今村天主堂　野田宇太郎
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」
—近代日本比較文学史への試み Ⅳ—　富田　仁
饗庭篁村とエドガー・ポー　宮永　孝

第三一号（昭和47年12月号）
明治村と明治文化研究会　野田宇太郎
竹添井井の四川旅行　—海舟と井井—　石中　象治
上田敏とイソップ寓話　北垣あつし
文明開化と港　北見　俊郎
鉄の柱とウォートルス（中の3）　菊池　重郎

第三二号（昭和48年1月号）
明治の町並木　野田宇太郎
進化論事始めの頃
—同志社ハワイ寮をめぐって—　山田　忠男
明治のマーク・トウェイン紹介者たち　勝浦　吉雄
鉄の柱とウォートルス（下）　菊池　重郎
明治の子供の遊び　渡辺　晏孝

第三三号（昭和48年2月号）
明治の東京案内
—チェンバレン『日本案内記より』—　高梨　健吉
京都聖ザビエル天主堂と南蛮寺　野田宇太郎
太田教授と吉利支丹研究　幸田　成友
中野逍遙のこと（一）
—『逍遙遺稿』をめぐって—　川崎　宏

第三四号（昭和48年3月号）
開村八周年記念・聖ザビエル天主堂公開記念展号
聖ザビエル教会遷座　木村　毅
明治村の文学　野田宇太郎
翻案の明治　吉武　好孝
明治初年の英学　佐藤　孝己
欅のカテドラル　京都聖ザビエル天主堂　菊池　重郎

第三五号（昭和48年4月号）
一信者として　小堀　杏奴
明治の翻訳創造語　野田宇太郎
明治の人・明治のことば　大村　喜吉
明治の文学　徳田秋声とフランス文学　富田　仁
池田菊苗の一挿話　渡部　英雄

第三六号（昭和48年5月号）
新島襄展・第七回茶会記念号
御挨拶　谷川　徹三
新島襄先生を想う　住谷　悦治
新島襄と日本の私学　村井　資長
新島襄先生の遺業　田畑　忍
民主主義教育家　新島襄先生　湯浅　八郎
新島先生と明治の学制　尾形　裕康
大和月ケ瀬の新島襄　野田宇太郎
新島襄先生のおんこと　野溝七生子
新島先生の旧宅　田中　省三
新島襄の信仰　高道　基
新島襄とアメリカ　オーテス・ケーリ

新島襄と改造　加藤　延雄
新島襄と徳富蘇峰　森中　章光
新島襄と富田鉄之助　吉野　俊彦
新島襄・その生誕地と終焉地　手塚　竜麿
新島先生と女子教育　田辺　繁子
新島襄と医学教育　長門谷洋治
新島襄と自然科学
—理化学館にて想う—　山田　忠男
同志社の明治建築　同志社社史史料編集所
海舟の書と新島襄　川崎　宏
新島襄略年譜

第三七号（昭和48年6月号）
『明治の石版画』　野田宇太郎
セント・ゴーデンズ博物館　斎藤　襄治
最初のフランス文学史　武藤　礼生
林董と釈興然　伊藤　宏見

第三八号（昭和48年7月号）
シェルバーン博物館　斎藤　襄治
まぼろしの女紅場　野田宇太郎
明治時代の医者修業　曽根　保
明治初年の御雇仏人
—地方、私雇を中心に—　西堀　昭

第三九号（昭和48年8月号）
佐久間象山をめぐる「西洋学」　惣郷　正明
パノラマ館　野田宇太郎
シェーカー・ヴィレジ
—ニューハンプシャー州カンタベリー—　斎藤　襄治
『明治村物語』に思う　長谷川　泉

第四〇号（昭和48年9月号）
象山の「西洋学」から津田梅子へ　惣郷　正明
〈明治村随想〉文明開化を考へる　野田宇太郎
日本における速記の由来について
—若林玵蔵のこと—　小河　織衣

第四一号（昭和48年10月号）
漱石の異色の弟子
—エリセーフについて—　石中　象治
〈明治村随想〉明治村と犬の一生　野田宇太郎
デカメロン上陸の日　吉岡　芳子
アンデルソン小考（上）
同姓同名のお雇い外国人をめぐって　菊池　重郎

第四二号（昭和48年11月号）
〈明治村随想〉明治村の初心　野田宇太郎
明治の燈明台　パーリー万国史（上）　惣郷　正明
日本の小学校修身書とイソップの寓話　北垣あつし
黎明期のフランス語字書（上）
—村上英俊の字書編纂—　富田　仁

第四三号（昭和48年12月号）
〈明治村随想〉今の家昔の場所　野田宇太郎
明治の燈明台　パーリー万国史（下）　惣郷　正明
西ドイツ、コマーン市の野外博物館　久保美智子
黎明期のフランス語字書（下）
—村上英俊の字書編纂—　富田　仁

第四四号（昭和49年1月号）
〈明治村随想〉ピンポン　野田宇太郎
燈台余話　岡沢　秀甫
〈明治の女〉遠藤清子の生涯　尾形　明子
アンデルソン小考（中）
同姓同名のお雇い外国人をめぐって　菊池　重郎

第四五号（昭和49年2月号）故土川元夫氏追悼号
土川さんを悼んで　石坂　泰三
土川元夫さんを悼む　田村　剛
明治は近くにある　桑原　幹根
桃李ものいわず　渋沢　秀雄
剣友　小堀　四郎
土川さんを悼む　野田宇太郎
残るもの　木村　毅

古武士的風格　谷川　徹三
不明　小掘　杏奴
土川さんを偲ぶ　城戸　久
土川元夫氏への追慕　関野　克
土川君と私　中川善之助
洛陽寒く黄昏れて　市島　成一
最後の正月餅　狩野　近雄
土川君　長尾　芳郎
旧国道四十一号線
—土川理事長を悼む—　田内　静三
映画「明治はる・あき」　五所平之助

第四六号（昭和49年3月号）**開村九周年記念号**
明治村九年目の春　野田宇太郎
チャールストン　斎藤　襄治
和英語林集成（ヘボン）と英和対訳袖珍辞書（堀達之助）　惣郷　正明

第四七号（昭和49年4月号）**続・開村九周年記念号**
若い人々のための明治村物語（補遺篇・一）
日本赤十字社病院　野田宇太郎
三度明治村に遊ぶの記　長谷川敏雄
日本赤十字社中央病院病棟　菊池　重郎

第四八号（昭和49年5月号）
第八回明治村茶会・小泉八雲展記念号
御挨拶　谷川　徹三
ヘルン先生の思い出　野尻　抱影
ラフカディオ・ヘルン素描　木村　毅
ハーンとは俺のことかとヘルン聞き　野田宇太郎
小泉八雲の日本観　太田　三郎
ハーンと日本の心　—盆踊のことなど—　高木　大幹
八雲と妻の座　長谷川　泉
ハーンの日本定住　佐藤　孝己
八雲研究と諸家の憶い出　小澤　明子
ハーンの来日関係資料　小玉　晃一
私の卒業論文とハーン　手塚　竜麿
「仏領西インド諸島のメモ帳」　富田　仁
ハーンの読者
—併せて邦訳全集について—　森　亮
「怪談」翻訳事始　速川　和男
小泉八雲と夏目漱石　大村　喜吉
チェンバレンとハーン　高梨　健吉
小泉八雲とバーナード・リーチ　浜川　博
ラフカディオ・ハーンの功罪について　吉武　好孝
ラフカディオ・ハーンのホイットマン論　鈴木　保昭
ハーンとモラエスと畠山勇子　梶谷　泰之

松江の小泉八雲　池野　誠
小泉八雲略年譜　編　速川　和男

第四九号（昭和49年6月号）
若い人々のための明治村物語（補遺篇・二）
清水医院と島崎藤村　野田宇太郎
『仏学始祖村上英俊』の著者・瀧田貞治　富田　仁
懐かしき日本赤十字社病院　田中　助一
第八回明治村茶会記　田山　方南
アンデルソン小考（下）
同姓同名のお雇い外国人をめぐって　菊池　重郎

第五〇号（昭和49年7月号）
明治の郵便　野田宇太郎
ある幕臣の子孫　大島　正
明治におけるディケンズ
—『西洋夫婦事情』のこと—　間　二郎
知られざる島村抱月の故地（Ⅰ）　伊藤　宏見

第五一号（昭和49年8月号）
なつかしいと感ずる心　野田宇太郎
川上澄生さんの思い出　鈴木彦四郎
ヴェネチアの緒方惟直を訪ねて　西堀　昭
知られざる島村抱月の故地（Ⅱ）　伊藤　宏見

第五二号（昭和49年9月号）
蒲原有明故家　野田宇太郎
モンパルナスの灯の影に
—モンパルナス墓地に眠る明治の人びと—　富田　仁
軍歌「橋中佐」及び長崎市の上水道　田中　助一
アンデルソン小考　補遺　菊池　重郎
知られざる島村抱月の故地（Ⅲ）　伊藤　宏見

第五三号（昭和49年10月号）
ケーベルについて　石中　象治
小説に描かれた明治の女性　1
—有島武郎『或る女』—　小玉　晃一
尾崎紅葉と外国文学　富田　仁
漱石・寅彦・柳田国男　渡部　英雄

第五四号（昭和49年11月号）
KDの歌　—明治の青春—　野田宇太郎
鷗外の「舞姫」「うたかたの記」の足跡を辿って（上）　北垣あつし
植村正久の英文学的側面　小玉　晃一
明治の建築材料　一戸清方の「工業材料論」など　菊池　重郎

第五五号（昭和49年12月号）
新大橋と文学　野田宇太郎
ブラジルを思う　中野　記偉
明治の碁　高梨　健吉
鷗外の「舞姫」「うたかたの記」の足跡を辿って（下）　北垣あつし
近代日本にとってのアラブ
—本多利明・福沢諭吉・東海散士—　関根　謙司
日赤病院のシンボル　木彫「赤十字と桐竹鳳凰」　菊池　重郎

第五六号（昭和50年1月号）
商法講習所の成立と勝海舟　手塚　竜麿
「近代文学」派と明治村　中島　和夫

第五七号（昭和50年3月号）開村十周年記念号
明治村十年　野田宇太郎
出会と別離　小堀　杏奴
娘の嫁入り
—「ブラジル日本移民記念館」となるわが家のこと—　久保田安雄
移民記念館・その他　石川　達三
隈田川　新大橋　菊池　重郎
隅田川架橋の変遷　新大橋を主として　鷲見安二郎
明治の末っ子新大橋　喜多川周之
「樺島正義自伝」と新大橋について
「樺島正義自伝」抄（一）　野田宇太郎
明治村での「四季」の会　土屋　博靖
笠戸丸考（一）　太田　三郎
ブラジルの日本語文学　樺島　正二
亡き父のこと
「樺島正義自伝」抄（二）

第五八号（昭和50年4月号）

第五九号（昭和50年5月号）
夏目漱石と早稲田南町界隈　赤瀬　雅子
笠戸丸考（二）
—大阪商船時代の笠戸丸—　土屋　博靖
新大橋の一部明治村に保存　関根秀三郎
ポンティスト　菊池　重郎
「樺島正義自伝」抄（三）

第六〇号（昭和50年6月号）森鷗外展記念号
森鷗外「沙羅の木」展覧会　野田宇太郎
鷗外の「澀江抽斎」から　小堀　杏奴
笠戸丸考（三）
—水産母船時代の笠戸丸とその最期—　土屋　博靖
ビアズレイの系譜　その文献　1　関川左木夫
中江兆民の仏蘭西学　富田　仁
「樺島正義自伝」抄（四）

第六一号（昭和50年7月号）

「猫」の解剖 1　渋沢　秀雄
笠戸丸考（四）　―笠戸丸の最期―　工谷　庄一
第九回明治村茶会記　田山　方南
幸田露伴先生雲錦之帖序の由来　大島吉之助
明治の「一海軍生徒志望者の備忘録」より（上）　関本　栄一

第六二号（昭和50年8月号）

明治村の夏　野田宇太郎
「猫」の解剖 2　渋沢　秀雄
笠戸丸考　補遺　土屋　博靖
橋の建築家　隅田川新大橋と福田重義　菊池　重郎
続・夏目漱石と早稲田南町界隈　赤瀬　雅子
明治の「一海軍生徒志望者の備忘録」より（下）　関本　栄一

第六三号（昭和50年9月号）

「猫」の解剖 3　渋沢　秀雄
内田魯庵の友情　浜川　博
野球戯の渡来　惣郷　正明
〃藤野厳九郎〃先生　余談（上）　―非凡なる敗残―　大島　正
近岡善次郎画伯の明治建築を描いた作品展覧会　今泉　篤男

第六四号（昭和50年10月号）

「猫」の解剖 4　渋沢　秀雄
カウボーイ博物館　斎藤　襄治
〃藤野厳九郎〃先生　余談（下）　―非凡なる敗残―　大島　正
川上音二郎と初の児童劇公演の周辺　荒牧　金光

第六五号（昭和50年11月号）

「猫」の解剖 5　渋沢　秀雄
汽笛一声明治村寄席　野田宇太郎
ビアズレイの系譜　その文献 2　関川左木夫
堀口大学と父九萬一（上）　―『長城詩抄』読後―　久保　忠夫
〃明治村〃吟行　川柳夢遊会

第六六号（昭和50年12月号）

「猫」の解剖 6　渋沢　秀雄
チンチン電車礼賛　―明治村日帰り混乱の記―　高橋　健二
堀口大学と父九萬一（下）　―『長城詩抄』読後―　久保　忠夫
入江文郎と仏蘭西学　―碑文と送別文―　富田　仁
水戸と伊曾保物語　北垣あつし

第六七号（昭和51年1月号）

「猫」の解剖 7　渋沢　秀雄
明治船載建築技術書　スウェイトのイギリス工場建物衛生安全論ノート（上）　菊池　重郎
呉服座　―その歴史的環境―　後藤　文利
山本松次郎のこと　宮崎　懐英

第六八号（昭和51年2月号）

「猫」の解剖 8　渋沢　秀雄
「蝶々夫人」その他　石中　象治
ビアズレイの系譜 3　関川左木夫
明治初期の私塾・学校　―渋江保の回想―　佐藤　孝己
森鷗外とアナトール・フランス（上）　沖津ミサ子

第六九号（昭和51年3月号）　**開村十一周年記念号**

ご挨拶　渋沢　秀雄
祝辞　レイ・マッガニガル
「猫」の解剖 9　渋沢　秀雄
森鷗外とアナトール・フランス（下）　沖津ミサ子

第七〇号（昭和51年4月号）
「猫」の解剖 10　明治村版　アメリカ物語（一）　渋沢　秀雄
「草枕」と明治村　木村　毅
小説に描かれた明治の女性 2　多湖　実夫
—円地文子『女坂』—
中江兆民の帰国の時期について　小玉　晃一
寺田寅彦と生物三角形　富田　仁
渡部　英雄

第七一号（昭和51年5月号）
「猫」の解剖 11　明治村版　アメリカ物語（二）　渋沢　秀雄
木村　毅
明治船載建築技術書　スウェイトのイギリス工場建物衛生安全論ノート（中）　菊池　重郎
むかしのテニス　高梨　健吉
佐橋富三郎のこと　水野　義一

第七二号（昭和51年6月号）
「猫」の解剖 12　明治村版　アメリカ物語（三）　渋沢　秀雄
木村　毅
第十回明治村茶会記　田山　方南
「清姫」拝見記　岡田　譲
明治船載建築技術書　スウェイトのイギリス工場建物衛生安全論ノート（下）　菊池　重郎

第七三号（昭和51年7月号）
「猫」の解剖 13　明治村版　アメリカ物語（四）　渋沢　秀雄
明治の露西亜語学校　木村　毅
ロングフェローと明治日本　佐藤　良雄
文献雑話　吉武　好孝
品川　力

第七四号（昭和51年8月号）
「猫」の解剖 14　明治村版　アメリカ物語（五）　渋沢　秀雄
東京の眼鏡橋（上）　木村　毅
—明治初年めがね橋の東漸
菊池　重郎

第七五号（昭和51年9月号）
明治村版　アメリカ物語（六）　木村　毅
ウイリアム・ジオンズ日本滞在の一カ月（上）　太田　三郎
エディンバラの志士たち　田鍋　幸信
民芸大会印象記　亀山　巌

第七六号（昭和51年10月号）
明治村版　アメリカ物語（七）　木村　毅
ウイリアム・ジオンズ日本滞在の一カ月（下）　太田　三郎
幼稚園百年と松野クララ　手塚　竜麿
漱石の師ジェイムズ・メイン・ディクスン（上）　佐藤　孝己

第七七号（昭和51年11月号）
東京の眼鏡橋（下）　菊池　重郎
—明治初年めがね橋の東漸
明治のアメリカ文学史　鈴木　幸夫
漱石の師ジェイムズ・メイン・ディクスン（下）　佐藤　孝己

第七八号（昭和51年12月号）
日赤中央病院と関東大震災の思い出　杉山　里つ
成瀬文庫案内稿（1）　助川　徳是
—雑誌について—
曾我廼家喜劇の誕生　荒牧　金光
明治長崎異人哀話（上）　富田　仁
—ピニヤテール・その愛

第七九号（昭和52年1月号）
帝国ホテルの思い出話　黒川　威
明治村を見学しながら　村井　米子
明治長崎異人哀話（下）　富田　仁
—ピニヤテール・その愛
ビアズレイの系譜（上）　関川左木夫
—画法の変化と浮世絵—
少年正岡子規と松山での学校教育　影山　昇

第八〇号（昭和52年2月号）
明治のモラル 今のモラル　吉武 好孝
今年の移築公開建物（上）　菊池 重郎
ビアズレイの系譜（下）
―画法の変化と浮世絵―　関川左木夫

第八一号（昭和52年3月号）開村十二周年記念号
十二周年を迎えて　渋沢 秀雄
今年の移築公開建物（下）　菊池 重郎
明治時代の裁判所について
―京都地裁宮津支部旧庁舎の明治村移築に寄せて―　秋山 寿延
皇宮警察署庁舎　高尾 亮一
金沢監獄と瀧の白糸　村松 定孝
明治村を見て思うこと　加茂 儀一
「正義」のシンボル　春山 行夫
宮津裁判所法廷移築公開記念展略目録
行刑資料展略目録

第八二号（昭和52年4月号）
二人の徳川さん　野田宇太郎
明治村がもしなかったら
―開村十二周年に際して―　谷口 吉郎
明治村賞を授与されて　野田宇太郎
土川元夫賞を受賞して　本多 静雄
土川元夫賞を受賞して　久我 俊一
明治村雑感　矢野 二郎
端役登場 ―資料収集に加わって―　中島 英夫
移築公開余録　菊池 重郎
第一回明治村剣道大会報告　松崎 好

第八三号（昭和52年5月号）
明治英語ものがたり（一）　木村 毅
人形師点描　出 利夫
鯉の吹流し　関 忠夫
横浜発掘 古製の鉄軌条（上）　菊池 重郎
大村益次郎の従者篠田武蔵　田中 助一
金沢監獄正門移築記念「矯正（行刑）資料展」の開催について　土屋 博靖
附・「北海道行刑資料館」のこと

第八四号（昭和52年6月号）
紫陽花の話　本田 正次
明治英語ものがたり（二）　木村 毅
鷗外と漱石の初対面　野田宇太郎
横浜発掘 古製の鉄軌条（中）　菊池 重郎
第十一回明治村茶会記　田山 方南

第八五号（昭和52年7月号）
暑中休暇と避暑　野田宇太郎
明治英語ものがたり（三）　木村 毅
横浜発掘 古製の鉄軌条（下）　菊池 重郎
明治村に刑事法廷を見る　吉江 知養

第八六号（昭和52年8月号）
兜町の家　渋沢 秀雄
明治英語ものがたり（四）　木村 毅
明治村雑感　島田 謹二
カツユ　山口格太郎
ジョルジュ・ブスケのこと　富田 仁

第八七号（昭和52年9月号）
一枚の古写真　菊池 重郎
明治英語ものがたり（五）　木村 毅
写真・明治の青春（一）
―高時代の谷崎潤一郎・和辻哲郎・大貫晶川他　野田宇太郎
明治の平戸界隈　藤浦 洸
コオロギ　黒沢 良彦
明治の新政と国学者神主　田島 清

第八八号（昭和52年10月号）
団子坂界隈　岡田 譲
明治の唱歌（一）　渋沢 秀雄
写真・明治の青春（二）　中村岳陵　中村 溪男

飛騨の山里の明治　荒垣　秀雄
明治の新内など　岡本　文弥

第八九号（昭和52年11月号）
落葉図雑想　―菱田春草―　中村　溪男
一閑張りの朱い手筐から　城　夏子
明治の唱歌（二）　渋沢　秀雄
小那沙美島燈台　岡沢　秀甫
明治東京風景　曽宮　一念
私の明治　矢野　峰人

第九〇号（昭和52年12月号）
雪の日　東山　魁夷
父藤岡作太郎を思う（一）「漱石の手紙（一）」　藤岡　通夫
明治の唱歌（三）　渋沢　秀雄
工部大学校百年（上）―現存最古のキャビタル―　菊池　重郎
明治英語ものがたり（六）　木村　毅

第九一号（昭和53年1月号）
明治生れの私の幼年時代の風景　津田　青楓
子供のころの明治のお正月　村井　米子
わが生家に題す　木村　毅
明治末期の私　徳川　宗敬

父藤岡作太郎を思う（二）「漱石の手紙（二）」　藤岡　通夫
明治の風情　劉　寒吉
工部大学校百年（中）　菊池　重郎
東京の橋（上）―江戸っ子と橋―　石川　悌二

第九二号（昭和53年2月号）
梅の花　野田宇太郎
明治の唱歌（四）　渋沢　秀雄
工部大学校百年（下）　菊池　重郎
工部大学の跡　是澤　恭三
父藤岡作太郎を思う（三）「露伴の手紙」　藤岡　通夫

第九三号（昭和53年3月号）
武蔵野雑観　向井　潤吉
空家の霊気　里見　弴
「西郷従道邸」のわが想い出　西郷　従吾
明治の唱歌（五）　渋沢　秀雄
明治初期の外人植物採集家（1）　春山　行夫
洋風建築の木目塗　ペンキ塗装（上）―博物館明治村にある木目塗―　菊池　重郎

第九四号（昭和53年4月号）
皇居の桜　入江　相政

父藤岡作太郎を思う（四）「東圃遺稿」の扉絵　藤岡　通夫
明治初期の外人植物採集家（2）　春山　行夫
洋風建築の木目塗　ペンキ塗装（下）―博物館明治村にある木目塗―　菊池　重郎
東京の橋（下）―東京と石橋（上）―　石川　悌二
明治の唱歌（六）　渋沢　秀雄

第九五号（昭和53年5月号）
花水木　成瀬　文子
時代の異端者　本田　正次
父藤岡作太郎を思う（五）「交友」　藤岡　通夫
明治の唱歌（七）　渋沢　秀雄
東京の橋（下）―東京と石橋（下）―　石川　悌二
明治初期の外人植物採集家（3）　春山　行夫

第九六号（昭和53年6月号）
明治の頬かむり　宮尾しげを
明治村に坐漁荘を訪れて　ルイス・ブッシュ
明治初期の外人植物採集家（4）　春山　行夫
明治の唱歌（八）　渋沢　秀雄
明治の讃美歌―伊予法華津峠に「山路越えて」の碑をたずねる―　手塚　竜麿
第十二回明治村茶会記　田山　方南

明治村五月茶会　桐後亭　野田宇太郎

第九七号（昭和53年7月号）

ささやかな夜祭　森　銑三
宿屋のはなし（一）　木村　毅
明治初期の外人植物採集家（5）　春山　行夫
明治の唱歌（九）　渋沢　秀雄
写真・明治の青春（三）　野田宇太郎
明治十三年の森鷗外

第九八号（昭和53年8月号）

夏の思い出　栗島すみ子
東京下町の景物　硝子の金魚鉢閑話（上）　菊池　重郎
私の明治　市島　成一
明治の唱歌（一〇）　渋沢　秀雄
宿屋のはなし（二）　木村　毅
ブラジル移民七十周年祝賀行事に参列して　土屋　博靖

第九九号（昭和53年9月号）

九月の東京　戸川　エマ
明治末頃の洋風生活の家　石田　アヤ
東京下町の景物　硝子の金魚鉢閑話（下）　菊池　重郎
宿屋のはなし（三）　木村　毅
明治の外人植物採集家（6）　春山　行夫
ブラジル日本移民史料館について（上）　土屋　博靖

第一〇〇号（昭和53年10月号）

そこに初心あり　野田宇太郎
明治村通信百号に寄せて
明治村百感　谷口　吉郎
感謝　戸板　康二
杉戸　清
藤浦　洸
向井　潤吉
高田　博厚
田山　方南
川島　武宜
土川　丈夫
明治村と犬山市　小島　清三
渋沢　秀雄
あの頃のこと　山田　忠男
田内　静三
里見　弴
所感　市島　成一
竹田　直
岡田　譲
三宅　重光
和泉　正雄
明治村百感
村会議員の感想　木村　毅
城戸　久
草野　心平
杉村　武
ヨハネ教会の背景　藤岡　通夫
岡野　澄
明治村と私　桑原　幹根
本多　静雄
土川さんのこと　本田　正次
徳川　宗敬
岩切章太郎
上林　吾郎
東山　魁夷
明治村讃　大久保利謙
第百号に寄せて　有光　次郎
池田彌三郎
すばらしい明治村　遠藤　武
杉本　健吉
伊藤　延男
明治の町と明治の空気を　緒方　富雄
田村　剛
祝　宮静
水谷八重子
竹内　外茂
平和の楽しさ　梶井　健一

明治村百感　明治村を愛して　猪熊弦一郎
礼宮様のご来村　春山　行夫
田内静三常務理事を悼む　竹田弘太郎
弔辞　谷口　吉郎
悼偈　有光　次郎
悼　田内静三　田山　方南
杉村　武

第一〇一号（昭和53年11月号）
秋の一日　田中　冬二
明治時代の民話　たぬき　猪熊弦一郎
ブラジル日本移民史料館について（下）　土屋　博靖
明治の唱歌（一一）　渋沢　秀雄
宿屋のはなし（四）　木村　毅
続　明治村百感　外国人にぜひ見せたい　河盛　好蔵
遠くない「明治」　余合　俊一
堀田　庄三
佐々木重雄
山崎　富治
日本の名所　仲谷　義明
澤村三木男
谷口清太郎

続　明治村百感　原点回帰　菊池　重郎
土屋　博靖

第一〇二号（昭和53年12月号）
師走の寄席風景
―その失われた姿の中に―　松島　栄一
明治村出入　中河　与一
明治の唱歌（一二）　渋沢　秀雄
明治の外人植物採集家（6の2）　春山　行夫
アーネスト・F・フェノロサ来日百年
宿屋のはなし（五）　菊池　重郎
明治村百感・続　明治の人びとの驚き　木村　毅
加藤乙三郎
小堀　杏奴

第一〇三号（昭和54年1月号）
年のはじめに　荒垣　秀雄
明治の飛騨の正月　添田　知道
私の明治　ラッパ節で　渋沢　秀雄
明治の唱歌（一三）　寺田　熊雄
明治村を見て　木村　毅
宿屋のはなし（六）　川幡　留司
明治村を訪れて

第一〇四号（昭和54年2月号）
谷口吉郎館長を悼む　祖父鉄腸と筆立て　末廣　恭雄
明治の唱歌（一四）　渋沢　秀雄
明治の外人植物採集家（7）　春山　行夫
宿屋のはなし（七）　木村　毅

第一〇五号（昭和54年3月号）　**谷口吉郎館長を悼む**
開村者の霊に捧ぐ　渋沢　秀雄
谷口吉郎館長葬儀における
司会者あいさつ　藤岡　通夫
弔辞　竹田弘太郎
犬丸　直
江川　昇
谷川　徹三
東山　魁夷
田山　方南
斎藤　進六
海老原一郎
梅村　魁
長崎　勧
野田宇太郎
井形　卓三
桑原　幹根
木村　毅
入江　相政

悼偈並悼歌
谷口吉郎さんのこと
茶目ッ子的一面
梅が香

谷口君とわたし
—装幀と記念碑とを通じて—　緒方　富雄
村に置てある私の青春　菊池重三郎
谷口さんの追憶　島崎　楠雄
谷口さんの思ひ出　丹羽　文雄
谷口吉郎氏を偲ぶ　大久保利謙
谷口吉郎君を偲びて　今井　猛雄
谷口さんのこと　本多　静雄
明治村十四年　長尾　芳郎
谷口吉郎先生と九州　劉　寒吉
坐漁荘のことなど　堀田　庄三
誄　谷口吉郎　杉村　武
交友五十余年　二見　秀雄
谷口吉郎先生の御逝去に際して　土川　丈夫
谷口館長をしのぶ　城戸　久
谷口吉郎先生を偲ぶ　植村　敏夫
谷口博士をしのぶ　市川　為雄
限りなく惜しい人　今　日出海
谷口さんと美術館　岡田　譲
谷口吉郎さん　高田　博厚
四つの思い出　荒垣　秀雄
水の如し　小堀　杏奴
古里の雪　徳田　一穂
谷口吉郎さんの追憶　吉原　政智
亡き谷口先生を偲んで　服部　良一

三つの小さな事　平井　聖
谷口さんの思い出　河北　倫明
「初恋」を歌ったころ　関　龍夫
谷口吉郎先生の思い出
—おだやかなおひと柄—　塩月弥栄子
谷口吉郎追悼　草野　心平
追慕　小幡祥一郎
建築のふるさと　三輪　正弘
谷口吉郎氏と慶応義塾幼稚舎　内田　英二
谷口吉郎先生との絆　由良　滋
美術館の展示と谷口先生　本間　正義
谷口館長を悼みて　中沢源一郎
泣堇詩碑建立のころ　松枝　喬
心のぬくみにふれて
—谷口さんの思い出の中から—　嘉門　安雄
谷口吉郎先生の御逝去を悼む　菊池　重郎
谷口吉郎略年譜

第一〇六号（昭和54年4月号）
明治村十四歳　野田宇太郎
谷口館長の絶筆
続 谷口吉郎館長を悼む
詩碑のほとりの回想　伊藤　信吉
永遠の目　山本　和夫
文学碑前後　中河　与一

谷口先生と吉川英治記念館　吉川　文子
よいお墓をつくって頂いて　亀井　斐子
想い出　室生　朝子
ふるさとに生きる　新保千代子
端正な造型感覚　土方　定一
死者の家　江藤　淳
シロネズミの碑　吉田　直哉
私の悔い　上林　吾郎
谷口吉郎先生と柳娯亭　吉井　長三
作家と建築家　堺　誠一郎
明治の唱歌（一五）　渋沢　秀雄
明治の外人植物採集家（8）　春山　行夫
第三回明治村剣道大会報告　松崎　好

第一〇七号（昭和54年5月号）
谷口先生の情熱と明治村の運営　川島　武宜
私の明治　本郷金助町　添田　知道
宿屋のはなし（八）　木村　毅
明治の唱歌（一六）　渋沢　秀雄
明治の外人植物採集家（9）　春山　行夫

第一〇八号（昭和54年6月号）
両陛下をお迎えして　野田宇太郎
明治村の両陛下　田山　方南
明治村行幸啓雑詠

マロニエの並木道　杉村　武
明治の外人植物採集家（10）　春山　行夫
土川賞受賞の感謝　森本　謙三
第十三回明治村茶会の記　田山　方南

第一〇九号（昭和54年7月号）
博物館明治村館長に就任して　関野　克
石と旗　谷口吉郎さんの著書　春山　行夫
明治の唱歌（一七）　渋沢　秀雄
二つの明治　竹西　寛子
河原崎座の再興と九代目市川団十郎　菊池　明
「桃太郎の誕生地」縁起　松川　英逸

第一一〇号（昭和54年8月号）
「夏のおもひで」　野田宇太郎
西洋建築点描　1　上田市医師会館（旧上田警察署）　山崎　信明
明治の唱歌（一八）　渋沢　秀雄
関東大震災と帝国ホテル　犬丸　徹三

第一一一号（昭和54年9月号）
三教授の若がき　曽宮　一念
明治二十七年酒田地震　関野貞の日記から　関野　克
明治の大地震　濃尾地震惨害の一例　菊池　重郎
西洋建築点描　2　亀山製糸室山工場（旧伊藤製糸所）　伊藤三千雄

第一一二号（昭和54年10月号）
「十月の日記」　―もう秋です―　徳田　一穂
明治の高知　宮尾登美子
明治の和紙　―杉原紙のこと―　町田　誠之
新聞記事から見た明治の外国人たち　油野　良子
明治村日本庭園の記（遺稿）　田村　剛
田村剛先生を偲んで　明治村日本庭園築造のころ　清水　久彌
松山初子氏寄贈のオルガンについて　川崎　宏

第一一三号（昭和54年11月号）
明治の紙　町田　誠之
木村毅と魂のブランコ　野田宇太郎
木村毅さんの業績　春山　行夫
木村先生と僕と　植村　清二
西洋建築点描　3　蓬莱別館（旧南葵文庫）　伊藤三千雄
梅子と清雄（上）　―明治初期英学少女と画学青年川村清雄―　荒井　義雄

第一一四号（昭和54年12月号）
後藤象二郎の身がわり道中をした祖母　村井　米子
「芸術」という用語　1　明治の学術用語の成立　1　春山　行夫
梅子と清雄（下）　―明治初期英学少女と画学青年川村清雄―　荒井　義雄
木村毅君の思ひ出　矢野　峰人
木村毅先生を悼む　森本　謙三
追憶　千家　哲麿
田村先生と北山川の筏下り　荒垣　秀雄

第一一五号（昭和55年1月号）
年頭のことば　関野　克
春の頁　―人と建物―　徳田　一穂
正月今昔　―北九州の場合―　劉　寒吉
押葉　小堀　杏奴
「芸術」という用語　2　明治の学術用語の成立　2　春山　行夫
西洋建築点描　4　日本水準原点　―その石造洋風覆屋　菊池　重郎
独特の博物館―明治村　馬　成三

第一一六号（昭和55年2月号）
しだれ梅　野田宇太郎
思い出のところどころ　杉森　久英
「科学」という用語　明治の学術用語の成立　3　春山　行夫

木村毅先生の逝去をいたみて　大久保利謙
城戸久さんの死を悼む　藤岡　通夫
城戸先生をいたむ　飯田喜四郎

第一一七号（昭和55年3月号）
開村十五周年・石川啄木展記念号

十五周年を祝う　渋沢　秀雄
明治村開村十五周年を迎えて　竹田弘太郎
明治村十五周年を迎えて　関野　克
開村の日　太田博太郎
座談会「明治村の十五年」　関野　克
藤岡　通夫
竹内　外茂
菊池　重郎
野田宇太郎

移築公開建造物三件
宗教大学車寄　本郷喜之床　半田東湯　菊池　重郎
石川啄木と喜之床その他　野田宇太郎
石川啄木と私　金田一春彦
啄木歿年の手紙　杉村　武
本郷弓町時代の啄木
―明治四十三年を中心に―　岩城　之徳
石川啄木年譜　編　昆　豊
監修　野田宇太郎

第一一八号（昭和55年4月号）
随筆十二ヶ月（一）　石川啄木の四月　野田宇太郎
六十年むかしの雪山とスキー　村井　米子
「語原」と「起原」　明治用語の成立　4　春山　行夫
工学創始（上）　菊池　重郎
一八八〇年と「工学叢誌」の創刊
西洋建築点描　5
東京商船大学第一、第二観測所（旧商船学校天文観測台）　堀　勇良

第一一九号（昭和55年5月号）
随筆十二ヶ月（二）　暮春初夏　野田宇太郎
レクラム料理　高橋邦太郎
「起原」と「起源」　明治用語の成立　5　春山　行夫
工学創始（下）　菊池　重郎
一八八〇年と「工学叢誌」の創刊
西洋建築点描　6　猿島要塞　藤森　照信
西郷隆盛所用の金時計　川村　純二

第一二〇号（昭和55年6月号）
随筆十二ヶ月（三）
長崎のおたきさん花　野田宇太郎
明治・東京下町の洋食　高橋邦太郎
「化学」という用語　1　春山　行夫
明治用語の成立　6
時計台　菊池　重郎
ザビエル天主堂に茶を捧げて　千　宗屋

第一二一号（昭和55年7月号）
随筆十二ヶ月（四）　森鷗外の七月　野田宇太郎
パリの友情　―西園寺と光妙寺―　高橋邦太郎
明治の水泳と海水浴　佐藤　良雄
「化学」という用語　2　春山　行夫
明治用語の成立　7
明治期国産掛時計談屑　平野　光雄

第一二二号（昭和55年8月号）
随筆十二ヶ月（五）　露伴先生葬送の日　野田宇太郎
ガラスと南画　高橋邦太郎
「化学」という用語　3　春山　行夫
明治用語の成立　8
西郷従道の西洋体験（上）　菊池　重郎
西洋建築点描　7　招魂社の高灯籠　初田　亨

第一二三号（昭和55年9月号）
随筆十二ヶ月（六）　二百十日　野田宇太郎
フランス医学事始め（一）　高橋邦太郎
「理学」という用語　1　春山　行夫
明治用語の成立　9
西郷従道の西洋体験（下）　菊池　重郎

第一二四号（昭和55年10月号）
北里研究所本館・医学館開館記念号

北里研究所本館移築に想う　竹田弘太郎
北里研究所本館の明治村移転について　長木　大三
北里研究所の明治村移築について　秦　藤樹
北里研究所本館の移築保存の経緯　関野　克
北里柴三郎先生について　上田　宏
明治における細菌学の導入　藤野恒三郎
北里柴三郎先生と祖父及び父　長与　健夫
北里柴三郎と東大衛生学　山本　俊一
北島多一博士　桂　芳久
秦佐八郎先生　添川　正夫
ロベルト・コッホ　大鳥蘭三郎
北里とコッホとベーリング　大塚　恭男
明治期の顕微鏡について　小林　義雄
医学館の展示　緒方　富雄
北里研究所本館・医学館の建築　菊池　重郎

第一二五号（昭和55年11月号）
随筆十二ヶ月（七）
　ああ大和にしあらましかば　野田宇太郎
フランス医学事始め（二）　高橋邦太郎
「理学」という用語　2　春山　行夫
明治用語の成立　9の2
パストゥールの廟　村松　嘉津

第一二六号（昭和55年12月号）
随筆十二ヶ月（八）　柳川の白秋祭　野田宇太郎
日本国勲章事始め　高橋邦太郎
「物理」という用語　1　春山　行夫
明治用語の成立　10
北里先生にゆかりの医学切手　古川　明
―コッホ・ベーリング・エールリッヒ―
明治村医学館展示の顕微鏡案内　菊池　重郎

第一二七号（昭和56年1月号）
随筆十二ヶ月（九）　下町と甘酒　野田宇太郎
虹の桟を掛けた人　高橋邦太郎
―画商・林忠正（上）
「物理」という用語　2　春山　行夫
明治用語の成立　11
西洋建築点描　8
　北海道大学第二農場の建築　越野　武
燈台と燈明台　岡沢　秀甫

第一二八号（昭和56年2月号）
随筆十二ヶ月（十）　紅梅酒　野田宇太郎
虹の桟を掛けた人　高橋邦太郎
―画商・林忠正（下）
田山方南先生を偲んで　竹田弘太郎
欧米新建築のプレート図集「モダーン・アーキテクチュア」について　菊池　重郎

第一二九号（昭和56年3月号）
随筆十二ヶ月（十一）
　三月十八日の笑ひ　野田宇太郎
花のパリへSADA・YACCO　高橋邦太郎
―川上音二郎奮闘記　上―
「哲学」という用語　明治用語の成立　13　春山　行夫

第一三〇号（昭和56年4月号）
随筆十二ヶ月（十二）
　高村光太郎と四月の思ひ出　野田宇太郎
花のパリへSADA・YACCO　高橋邦太郎
―川上音二郎奮闘記　下―
「経済」と「理財」　明治用語の成立　14　春山　行夫
明治村を訪れて　小田桐弘子
月刊図集「近世建築」（上）　菊池　重郎

第一三一号（昭和56年5月号）
鷗外「箱入娘の歌」　長谷川　泉
パリの日本美術学生（上）　高橋邦太郎
―明治・大正・昭和三代

「社会」という用語　明治用語の成立 15　春山　行夫
月刊図集「近世建築」（下）　菊池　重郎

第一三二号（昭和56年6月号）
霧積にある聖書の碑　手塚　竜磨
パリの日本美術学生（下）
—明治・大正・昭和三代　高橋邦太郎
「社会」という用語　明治用語の成立 16　春山　行夫
秋田雨雀を偲んで　江口　清
武田久吉のこと　渡部　英雄
北里柴三郎博士「銅像記」について

第一三三号（昭和56年7月号）
一冊のアルバムから
—小笠原島の白秋—　大悟法利雄
秋声遺宅と徳田一穂さんのこと　野田宇太郎
諷刺画家ジョルジュ・ビゴー
—痛烈な文明批評家—　高橋邦太郎
「社会」という用語　明治用語の成立 17　春山　行夫
明治村の風物詩
明治村特別歌会あれこれ　志水賢太郎
岡田譲専務理事のご逝去を悼みて　関野　克

第一三四号（昭和56年8月号）
明治初期留学生　わが父と母　桜田　久
二つの墓標　パリと東京　高橋邦太郎
「社会学」という用語
明治用語の成立 18　春山　行夫
『仏文雑誌』のこと
玉藻探勝会　明治村吟行　富田　仁
兜木　総一

第一三五号（昭和56年9月号）
明治村と戦争　—もう一つの声—　野田宇太郎
江戸町人・瑞穂屋卯三郎　高橋邦太郎
「社会主義」という用語 1
明治用語の成立 19　春山　行夫
ジョルジュ・ビゴー筆の皿絵　村松　嘉津
『セセッション図案集』（上）
特にその「外観之部」の初刊年代について　菊池　重郎

第一三六号（昭和56年10月号）
ナマズに地震をきく　末廣　恭雄
親日家・羅尼　日本語新聞「世のうはさ」　高橋邦太郎
「社会主義」という用語 2
明治用語の成立 20　春山　行夫
『セセッション図案集』（下）
特にその「外観之部」の初刊年代について　菊池　重郎

第一三七号（昭和56年11月号）
歴史的建築物の保存継承
サー・ヒュー・コータッチ　高橋邦太郎
紅毛二人三脚　春山　行夫
「主義」という用語　明治用語の成立 21　安藤はる子
久しぶりの明治村

第一三八号（昭和56年12月号）
堀口大学先生と私　江口　清
フランス音楽事始め　高橋邦太郎
「イズム」の訳語　明治用語の成立 22　春山　行夫
ラトガースで開かれた「日本開国史展」　鈴木　保昭

第一三九号（昭和57年1月号）
バンザイ三唱はいつからか　槌田　満文
日本・活動写真事始め　高橋邦太郎
「宗教」という用語 1
明治用語の成立 23　春山　行夫
出版社「洪洋社」の創立と大正初年の出版活動（上）　菊池　重郎
グリフィス書簡のこと　山下　英一

第一四〇号（昭和57年2月号）
明治・ワイン事始め　高橋邦太郎

「宗教」という用語 2
明治用語の成立 23　春山　行夫
英語会話書に見る明治のひびき（上）　惣郷　正明
出版社「洪洋社」の創立と大正初年の出版活動（下）　菊池　重郎

第一四一号（昭和57年3月号）
高田小熊写真館移築公開・「明治の写真術と写真館」展記念号
高田小熊写真館の移築竣工と「明治の写真術と写真館展」の開催　関野　克
明治の写真家たち　小沢　健志
明治時代のカメラ　酒井　修一
明治時代の乾板とフィルム　鈴木　八郎
写真の紅露時代　明治の文士と写真器　野田宇太郎
明治の異形カメラ　宮部　甫
小西と浅沼　亀井　武
写真館の移築と写真閑話（上）　菊池　重郎
素人写真談　大橋又太郎
明治の女性　黒田清輝＝ピエル・ロチ　高橋邦太郎

第一四二号（昭和57年4月号）
光の使徒　アンリ・プレグラン
—横浜、東京にガス燈を—　高橋邦太郎
英語会話書に見る明治のひびき（下）　惣郷　正明
写真館の移築と写真閑話（中）　菊池　重郎

第一四三号（昭和57年5月号）
自然と文人　月ヶ瀬墨蹟展の意義　野田宇太郎
富岡製糸場　—官業はいつでも赤字—　高橋邦太郎
「宗教」という用語 3
明治用語の成立 25　春山　行夫
明治の書　堀江　知彦
写真館の移築と写真閑話（下）　菊池　重郎

第一四四号（昭和57年6月号）
カフェ変遷略史
—折角移し植えられたが—　高橋邦太郎
明治の絵葉書　ポストカードの歴史　小森　孝之
「仏法」と「仏教」 1
明治用語の成立 26　春山　行夫
洋風建築装飾ひながた図集（上）
明治三十年代の一プレート集の刊行　菊池　重郎

第一四五号（昭和57年7月号）
夏目漱石と馬　佐藤　良雄
京都＝リオン縁の絲　高橋邦太郎
「仏法」と「仏教」 2
明治用語の成立 27　春山　行夫
洋風建築装飾ひながた図集（下）
明治三十年代の一プレート集の刊行　菊池　重郎

第一四六号（昭和57年8月号）
乃木将軍と狩野芳崖　野田宇太郎
日本・洋食由来記（上）　高橋邦太郎
「仏法」と「仏教」 3
明治用語の成立 28　春山　行夫
下水道導入とR・H・ブラントン　早稲田　稔

第一四七号（昭和57年9月号）
「半月集」について　植村　清二
明治があった　原田　種夫
日本・洋食由来記（下）　高橋邦太郎
キリスト教の用語 1
明治用語の成立 29　春山　行夫
近代化の諸問題
—ジョージ・ティックナーと森鷗外—（1）　斎藤　襄治

第一四八号（昭和57年10月号）
書物雑談　品川　力
仏人の見た日本の寄席
—よくぞここまで—　高橋邦太郎
キリスト教の用語 2
明治用語の成立 30　春山　行夫
木葉会の明治期に刊行した建築プレート図集考 上　菊池　重郎

第一四九号（昭和57年11月号）

明治の制服余話　太田臨一郎
横浜・仏語伝習所　高橋邦太郎
キリスト教の用語 3　春山　行夫
明治用語の成立 31
近代化の諸問題
―ジョージ・ティックナーと森鷗外―（2）　斎藤　襄治

第一五〇号（昭和57年12月号）

明治はじめ東京のクリスマスと原胤昭　手塚　竜麿
汽車と機車　野田宇太郎
ジャクレー父子
―二代にわたる知日家―　高橋邦太郎
キリスト教の用語 4　春山　行夫
明治用語の成立 32
近代化の諸問題
―ジョージ・ティックナーと森鷗外―（3）　斎藤　襄治
玉井喜作と独文雑誌『東亜』　上村　直己

第一五一号（昭和58年1月号）

東京築地采女橋界隈　横山健之輔
碧眼の江戸っ子英利世夫（上）
セルジュ・エリセエーフ　高橋邦太郎
キリスト教の用語 5　春山　行夫
明治用語の成立 33
木葉会の明治期に刊行した建築プレート図
集考 中　菊池　重郎

第一五二号（昭和58年2月号）

明治村行　岩津　資雄
東京築地采女橋界隈（承前）　横山健之輔
碧眼の江戸っ子英利世夫（下）
セルジュ・エリセエーフ　高橋邦太郎
キリスト教の用語 6　春山　行夫
明治用語の成立 34
日本人初の下水道設計者 三田善太郎　早稲田　稔

第一五三号（昭和58年3月号）

明治村へのホテル史料の寄贈について　小口喜久二
青い目の農民魂
―フランス帰りの草鞋穿き―　高橋邦太郎
キリスト教の用語 7　春山　行夫
明治用語の成立 35
笠戸丸の遺品　土屋　博靖
木葉会の明治期に刊行した建築プレート図
集考 下　菊池　重郎

第一五四号（昭和58年4月号）

日本の宿屋　高梨　健吉
モンブラン伯爵（上）
―打倒幕府の仏貴族　高橋邦太郎
キリスト教の用語 8　春山　行夫
明治用語の成立 36
ドイツ学者 平塚定二郎　上村　直己
玉井喜作と絵葉書　田中　助一

第一五五号（昭和58年5月号）

大津事件 ―明治二十四年五月―　石崎　忠八
モンブラン伯爵（下）　高橋邦太郎
キリスト教の用語 9　春山　行夫
明治用語の成立 37
「敬天愛人」の系譜
―南洲と敬宇と康熙帝―　井田　好治

第一五六号（昭和58年6月号）

東京の外人墓地　手塚　竜麿
徳川義親侯の功績 英科学者の賞揚　高橋邦太郎
キリスト教の用語 10　春山　行夫
明治用語の成立 38
西郷従道邸とレスカス　澤　まもる
古橋懐古館明治の墨蹟展 鈔録（其一）　川崎　宏

第一五七号（昭和58年7月号）

「銀行」の名付親　荒垣　秀雄

キリスト教の用語 11　春山　行夫

明治用語の成立 39

洪洋社の『建築写真類聚』の創刊 一　菊池　重郎

松江を訪れた二人のフランス人

―アレクサンドルとヴァレット―

古橋懐古館明治の墨蹟展 鈔録（其二）　富田　仁

川崎　宏

第一五八号（昭和58年8月号）

夏の花物語　野田宇太郎

キリスト教の用語 12　春山　行夫

明治用語の成立 40

日本露天博物館明治村漫歩　宋　伯胤

〈訳者後記〉　松山　昭治

補註　川崎　宏

明治はいよいよ遠く　佐藤　良雄

第一五九号（昭和58年9月号）

関東大震災と蘆花　横山　春一

伊香保の思ひ出　野田宇太郎

蘆花五十七年忌に寄す

キリスト教の用語 13　春山　行夫

明治用語の成立 41

徳冨蘆花と粕谷　河原　英雄

『思出の記』と『デイヴィド・コパーフィールド』　間　二郎

古橋懐古館明治の墨蹟展 鈔録（其三）　川崎　宏

第一六〇号（昭和58年10月号）

牛込矢来町界隈　赤瀬　雅子

―柳浪、和郎のことなど―

キリスト教の用語 14　春山　行夫

明治用語の成立 42

洪洋社の『建築写真類聚』の創刊 二

―大正初年の住宅史料として 福島行信邸について

二松学舎と明治学院　菊池　重郎

―兄広助と弟藤村の世界を分ったもの―

明治天皇のももひき　剣持　武彦

第一六一号（昭和58年11月号）

明治天皇のももひき　石崎　忠八

キリスト教の用語 15　春山　行夫

明治用語の成立 43

洪洋社の『建築写真類聚』の創刊 三

―大正初年の住宅史料として 建築家の家

コンドル邸・辰野邸・妻木邸　菊池　重郎

近代日本のポスター　今井　良朗

―美人画ポスターと石版印刷―

明治名士評判記　池田　哲郎

第一六二号（昭和58年12月号）

もうひとりの瀧の白糸　村松　定孝

―「錦染瀧白糸」は鏡花作か？

キリスト教の用語 16　春山　行夫

明治用語の成立 44

東京の外人墓地（続き）　手塚　竜麿

若き日の丸山通一　上村　直己

『独逸音声学大意』（明34）の出版まで

日本赤十字社と結核撲滅運動（一）　土屋　博靖

第一六三号（昭和59年1月号）

紅葉の書簡　植村　清二

巌本善治のこと　磯崎　嘉治

若松賤子生誕百二十年に思う―城北の連環探訪

キリスト教の用語 17　春山　行夫

明治用語の成立 45

日本赤十字社と結核撲滅運動（二）　土屋　博靖

神田乃武と正則予備校　岸上　英幹

第一六四号（昭和59年2月号）

英国人教師のみた明治初期の学生　茂住　實男

W・G・ディクソン著『日出づる国』から

キリスト教の用語 18
明治用語の成立 46　春山　行夫

洪洋社の『建築写真類聚』の創刊 四
―明治末大正初年の住宅史料として
横浜山手のテンプル・コート　菊池　重郎

日本赤十字社と結核撲滅運動（三）　土屋　博靖

村井保固と妻キャロライン　福永　郁雄

第一六五号（昭和59年3月号）

〈明治史料再検あれこれ〉一　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（上）　上野　景福

キリスト教の用語 19
明治用語の成立 47　春山　行夫

洋学者最後の人　高橋邦太郎素描　佐藤　良雄

日本赤十字社と結核撲滅運動（四）　土屋　博靖

第一六六号（昭和59年4月号）

三溪先生讃　谷川　徹三

〈明治史料再検あれこれ〉二　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（中の上）　上野　景福

正岡子規と蕪村　松尾　靖秋

日本赤十字社と結核撲滅運動（五）　土屋　博靖

第一六七号（昭和59年5月号）

〈明治史料再検あれこれ〉三　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（中の下）　上野　景福

赤十字平和記念日に思う　手塚　竜麿

原三溪について　關　千代

洪洋社の『建築写真類聚』の創刊 五
―福島行信邸補遺　菊池　重郎

第一六八号（昭和59年6月号）

〈明治史料再検あれこれ〉四　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（下の上）　上野　景福

聖書の用語 1　明治用語の成立 48　春山　行夫

伯林の森鷗外記念館　長谷川　泉

近代日本の海外移住事始
―「元年者」ハワイ移民　今井　輝子

日本赤十字社と結核撲滅運動（六）　土屋　博靖

第一六九号（昭和59年7月号）

〈明治史料再検あれこれ〉五　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（下の中）　上野　景福

聖書の用語 2　明治用語の成立 49　春山　行夫

訳語の変遷 ①
オランダ語から英仏語へ　惣郷　正明

一高ドイツ語教師・福間博
―鷗外「二人の友」のF君―　上村　直己

第一七〇号（昭和59年8月号）**野田宇太郎氏追悼号**

野田宇太郎先生を悼む　竹田弘太郎

野田宇太郎先生と明治村
―先生のご逝去を悼みて―　関野　克

野田さんを悼む　菊池　重郎

文学院散歩居士　長谷川　泉

野田君の文学精神　劉　寒吉

「野田山脈」の文学散歩　荒垣　秀雄

野田宇太郎さんを想う　佐藤　良雄

詩心とバイタリティー　槌田　満文

野田さんと「文学散歩」　村松　嘉津

私の野田さん　荒井　義雄

「虹」の誌人を悼む　鎗田清太郎

野田先生を憶う　山田　朝一

風貌　太田茂比佐

野田宇太郎氏の思い出　杉山　二郎

最後の原稿　山浦　誠

詩・酉歳の男の歌　野田宇太郎

第一七一号（昭和59年9月号）

〈明治史料再検あれこれ〉六　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（下の下）　上野　景福
明治村に移築されるシアトルの家に関係した日系の人々　土屋　博靖
幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（一）　菊池　重郎
日本赤十字社と結核撲滅運動（七）　土屋　博靖

第一七二号（昭和59年10月号）

シアトル日系福音教会移築公開・「日系アメリカ移民の歩み」展記念号
シアトル日系福音教会（旧シアトル住宅）　菊池　重郎
シアトル日系福音教会解体の記　西尾　雅敏
シアトルの日本語　出来　成訓
日系アメリカ文学とシアトル　篠田左多江
桑港からの書簡　相川　之英

第一七三号（昭和59年11月号）

シアトルと翁久允　逸見　久美
訳語の変遷 ②
擬態語・提督・百科全書　惣郷　正明
桑港からの書簡（承前）　相川　之英

第一七四号（昭和59年12月号）

幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（二）　菊池　重郎
林勇氏―小諸市立藤村記念館名誉館長―九十八歳の生涯を偲ぶ　磯崎　嘉治
鹿鳴館について　富田　仁

第一七五号（昭和60年1月号）

幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（三）　菊池　重郎
「まなざし」の文学・森鷗外　剣持　武彦
ユーモアの狂い咲き
―和田垣謙三のこと―　速川　和男
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（上）　福永　郁雄

第一七六号（昭和60年2月号）

ロンドンの漱石と田中孝太郎の手紙　井田　好治
乃木将軍と米人記者ウォシュマン　皆川　三郎
幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（四）　菊池　重郎
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（中）　福永　郁雄

第一七七号（昭和60年3月号）

藤村県政の風景　保坂　忠信
聖書の用語 3　明治用語の成立 50　春山　行夫
明治奠都五十年駅伝競争始末記　佐藤　良雄
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（下の一）　福永　郁雄

第一七八号（昭和60年4月号）

岩村町と下田歌子女史
―幕末激動期の岩村藩―　樹神　弘
聖書の用語 4　明治用語の成立 51　春山　行夫
良教師パウル・エーマン　上村　直己
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（下の二）　福永　郁雄

第一七九号（昭和60年5月号）

下田歌子と淡海女子実務学校　山口　典子
アーサー・ロイド英訳　下田歌子女史作詩歌集『皇国ぶり』のことども　横山健之輔
明治の師弟　嘉納治五郎と平田秀木　小林　信行

第一八〇号（昭和60年6月号）

夢二の手紙と幸徳秋水　関川左木夫
帝国大学古典講習科国書課（Ⅰ）　佐藤　文樹
聖書の用語 5　明治用語の成立 52　春山　行夫
トマス・グラバーと倉場富三郎　佐藤　林平

兎に角私は感じた
—北原白秋『思ひ出』の思いで　尾崎　安

第一八一号（昭和60年7月号）
伊良子清白『孔雀船』の原郷を訪ねて　野々山三枝
ヴァン・リードの紀行文
「カルフォルニアから日本まで」(上)　福永　郁雄
聖書の用語 6 明治用語の成立 53　春山　行夫
エルドマンスデルフェルと五高不敬事件　上村　直己

第一八二号（昭和60年8月号）
〈明治史料再検あれこれ〉七 明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使
補遺（一）人選の理由　上野　景福
明治初年までの書生寮　惣郷　正明
ヴァン・リードの紀行文
「カルフォルニアから日本まで」(下)　福永　郁雄
永井荷風と上海　赤瀬　雅子

第一八三・一八四号（昭和60年9月・10月号）
明治村開村二十周年・帝国ホテル中央玄関移築竣工記念号
明治村開村二十周年を迎えて　谷川　徹三
明治村開村二十周年を迎えて　竹田弘太郎
明治村二十周年に寄せて　関野　克
明治村今昔　藤岡　通夫
明治村の機械　竹内　外茂
明治村春秋　小掘　杏奴
明治村創立二十年によせて　和泉　正雄
明治村開村二十周年と亡父土川元夫への追憶　土川　丈夫
明治村開村の頃　横山健之輔
博物館明治村の四半世紀　菊池　重郎
帝国ホテルの思い出
付・ライトが持っていた三冊の本　平井　聖
帝国ホテル回想　桐敷真次郎
「帝国ホテルを守る会」のころ　稲垣　栄三
帝国ホテルの建築に寄せて　遠藤　楽
フランク・ロイド・ライト氏と犬丸徹三氏（上）　土屋　博靖
「明治村二〇年の歩み」略年譜

第一八五号（昭和60年11月号）
〈明治史料再検あれこれ〉八 明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使
補遺（二）御用金　上野　景福
聖書の用語 7 明治用語の成立 54　春山　行夫
明治の操行点　惣郷　正明
フランク・ロイド・ライト氏と犬丸徹三氏（下）　土屋　博靖

第一八六号（昭和60年12月号）
〈明治史料再検あれこれ〉九 明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使
補遺（三）帰国までの出費　上野　景福
聖書の用語 8 明治用語の成立 55　春山　行夫
海を越えた日本人たちの軌跡 1　富田　仁
実践女学校に学んだ清国留学生 秋瑾女士　川崎　宏

第一八七号（昭和61年1月号）
小栗風葉 —その時代　岡　保生
聖書の用語 9 明治用語の成立 56　春山　行夫
ある国際結婚の余波　福永　郁雄
海を越えた日本人たちの軌跡 2
フランスへの旅人たち—文久元年遣欧使節
『荷風書誌』について　富田　仁
山田　朝一

第一八八号（昭和61年2月号）
小栗風葉 —その伝記（1）　岡　保生
聖書の用語 10 明治用語の成立 57　春山　行夫
明治村の印象　大岡　實
最初の文部省の小学読本　惣郷　正明

海を越えた日本人たちの軌跡 3
フランスへの旅人たち—文久三年遣仏使節　富田　仁

第一八九号（昭和61年3月号）
小栗風葉 —その伝記（2）　岡　保生
『明治建築をつくった人々 その二』
春季特別展について
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（一）　関野　克
菊池　重郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 4〉
慶応三年パリ万国博覧会と瑞穂屋卯三郎　富田　仁

第一九〇号（昭和61年4月号）
小栗風葉 —その作品　岡　保生
「亀甲鶴」の研究 —明治の酒造—　森下　肇
風葉伝の新資料 —半田学校の学籍簿—　岡　保生
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（二）　菊池　重郎

第一九一号（昭和61年5月号）
小栗風葉 —その人物　岡　保生
博物館「明治村」とのえにし　神谷　和郎
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（三）　菊池　重郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 4-2〉
明治初期の官費留学　富田　仁

第一九二号（昭和61年6月号）
帝国大学古典講習科国書課（Ⅱ）　佐藤　文樹
思い出の小沢欽之助校長
その人、その頃　皆川　三郎
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（四）　菊池　重郎
金子喜一の英詩 SHOZO TANAKA
—"Chicage Socialist Daily"から　鈴木彦四郎

第一九三号（昭和61年7月号）
在りし日の師弟関係と浅田栄次教授のこと　皆川　三郎
『椿姫』初訳からの一世紀　惣郷　正明
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（五）　菊池　重郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 5〉
パリ万博で鉛筆に魅せられた真崎仁六　富田　仁

第一九四号（昭和61年8月号）
フランスで見つかった明治の日本　西堀　昭
漱石と版権免許　稲岡　勝

〈海を越えた日本人たちの系譜 6〉
マッチに憑かれた清水誠　富田　仁

第一九五号（昭和61年9月号）
漫画に見る明治の街角〔第一回〕　清水　勲
昇斎一景・明治初年の街角
近代女優の成立　藤木　宏幸
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（六）　菊池　重郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 7〉
『蜻蛉集』をめぐる人びと　富田　仁

第一九六号（昭和61年10月号）
小栗風葉と太田乙平　岡　保生
漫画に見る明治の街角〔第二回〕　清水　勲
明治二年～四年の街角
野外博物館と日本
特に「スカンセン」と日本（七）　菊池　重郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 8〉
明治初年のフランス留学生総代入江文郎　富田　仁

第一九七号（昭和61年11月号）
漫画に見る明治の街角〔第三回〕　清水　勲
河鍋暁斎・明治初年の街角
松井須磨子と青柳有美　磯崎　嘉治
巌本善治連環探訪の一齣
帝国大学古典講習科国書課と父（Ⅲ）　佐藤　文樹

〈海を越えた日本人たちの系譜 9〉
西陣織工のリヨン研修　富田　仁
野外博物館と日本（補遺）　菊池　重郎

第一九八号（昭和61年12月号）
漫画に見る明治の街角〔第四回〕
C・ワーグマン（明治初年・10年代）　清水　勲
帝国大学古典講習科国書課と父（Ⅳ）　佐藤　文樹
〈海を越えた日本人たちの系譜 10〉
栗塚省吾
―フランス民法を学び司法行政に携わる　富田　仁
「ブラジル移民住宅」の旧所在地を訪ねて
―明治村からレジストロまで―　山崎　重成

第一九九号（昭和62年1月号）
漫画に見る明治の街角〔第五回〕
本多錦吉郎・明治10年代の街角　清水　勲
硬骨、恩情の碩学　細江逸記博士（前）　皆川　三郎
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（一）　菊池　重郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 11〉
高野正誠と土屋助次郎
―ワイン醸造に青春をかけた勝沼の二青年　富田　仁

第二〇〇号（昭和62年2月号）
漫画に見る明治の街角〔第六回〕
小林清親（明治10年代）　清水　勲
硬骨、恩情の碩学　細江逸記博士（後）　皆川　三郎
田山花袋漢学の師　吉田陋軒　鈴木彦四郎
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（二）　菊池　重郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 12〉
カーキ色創始者・稲畑勝太郎　富田　仁

第二〇一号（昭和62年3月号）
漫画に見る明治の街角〔第七回〕
小林清親（明治20年代）　清水　勲
〈海を越えた日本人たちの系譜 13〉
教育者・中川元　富田　仁
東京大学予備門教師F・プッチール　上村　直巳
郡制度の変遷と地方制度〔一〕　伊藤　昌子

第二〇二号（昭和62年4月号）
漫画に見る明治の街角〔第八回〕
長原孝太郎　清水　勲
〈海を越えた日本人たちの系譜 14〉
フランス法の実務者・加太邦憲　富田　仁
郡制度の変遷と地方制度〔二〕　伊藤　昌子

第二〇三号（昭和62年5月号）
漫画に見る明治の街角〔第九回〕
ジョルジュ・ビゴー　清水　勲
巌本範治と明治女学校の人脈（上）
巌本善治連環探訪の一齣　磯崎　嘉治
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（三）　菊池　重郎
郡制度の変遷と地方制度〔三〕
「東山梨郡役所」内「郡制度資料室」展示資料について　伊藤　昌子

第二〇四号（昭和62年6月号）
漫画に見る明治の街角〔第十回〕
田口米作（明治20年代）　清水　勲
〈海を越えた日本人たちの系譜 15〉
華族の留学　―久松定謨の場合　富田　仁
明治村を観て思うこと　皆川　三郎
明治開化の茶会　本多　静雄

第二〇五号（昭和62年7月号）
漫画に見る明治の街角〔第十一回〕
田口米作（明治30年代）　清水　勲
〈海を越えた日本人たちの系譜 16〉
矢野龍渓　―西欧体験で日本の危機感を覚醒したジャーナリスト・文学者　富田　仁
巌本範治と明治女学校の人脈（下）
巌本善治連環探訪の一齣　磯崎　嘉治
ベルツのジャパノロジー研究史　楠家　重敏

第二〇六号（昭和62年8月号）
漫画に見る明治の街角〔第十二回〕
『都の華』〔明治30年代〕　清水　勲
日光真光教会とJ・M・ガーディナー夫妻
—三代にわたる絆　鈴木彦四郎
榎本艦隊へのハワイ亡命勧告（上）　福永　郁雄
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（四）　菊池　重郎

第二〇七号（昭和62年9月号）
漫画に見る明治の街角〔第十三回〕
『滑稽新聞』〔明治30年代後半〕　清水　勲
榎本艦隊へのハワイ亡命勧告（下）　福永　郁雄
カール・ルイスと絵葉書（上）　澤　まもる
医学ドイツ語学者　高橋金一郎　上村　直己

第二〇八号（昭和62年10月号）
漫画に見る明治の街角〔第十四回〕
『東京パック』〔明治38〜45年〕　清水　勲
〈海を越えた日本人たちの系譜 17〉
岩倉使節団の見たパリ　富田　仁
カール・ルイスと絵葉書（下）　澤　まもる
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（五）　菊池　重郎

第二〇九号（昭和62年11月号）
漫画に見る明治の街角〔第十五回〕
『大阪パック』〔明治40年代〕　清水　勲
〈海を越えた日本人たちの系譜 18〉
明治初年フランス留学生の群像　富田　仁
工部大学校の開校式　安岡　昭男
読本懐古　橋村　壽
サトウとハーン　楠家　重敏

第二一〇号（昭和62年12月号）
鎮魂　野田宇太郎　佐藤　良雄
〈海を越えた日本人たちの系譜 19〉
大阪兵学寮とフランス留学生　富田　仁
元治元年のルポルタージュ（上）　福永　郁雄
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（六）　菊池　重郎

第二一一号（昭和63年1月号）
「自由を求めて戦う日本」（其一）
—英国版日露戦史—　皆川　三郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 20〉
山田顕義のフランス体験
元治元年のルポルタージュ（下）　富田　仁　福永　郁雄

第二一二号（昭和63年2月号）
「自由を求めて戦う日本」（其二）
—英国版日露戦史—　皆川　三郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 21〉
岩倉使節団のパリの軌跡（1）　富田　仁
「明治女学校」をめぐる作品群の形成（上）
厳本善治連環探訪の一齣　磯崎　嘉治

第二一三号（昭和63年3月号）
「自由を求めて戦う日本」（其三）
—英国版日露戦史—　皆川　三郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 22〉
岩倉使節団のパリの軌跡（2）　富田　仁
「明治女学校」をめぐる作品群の形成（中）
厳本善治連環探訪の一齣　磯崎　嘉治

第二一四号（昭和63年4月号）
フランク・ロイド・ライトの墓参り　中野　記偉
〈海を越えた日本人たちの系譜 23〉
岩倉使節団のパリの軌跡（3）　富田　仁
「明治女学校」をめぐる作品群の形成（下）
厳本善治連環探訪の一齣　磯崎　嘉治
明治村茶会へのお招き　吾妻　徳穂
竹久夢二展によせて　河北　倫明

第二一五号（昭和63年5月号）

紅葉館（其一）　綾部友治郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 24〉

明治初年のフランス留学生たち
—今村和郎・坂田乾一・飯塚納など—　富田　仁

ハインリヒ・ヴォルトマンの「明治34年熊本—別府徒歩旅行」　上村　直己

第二一六号（昭和63年6月号）

土木百年の足跡を辿る（一）
—百年前の土木界—　高橋　裕

紅葉館（其二）　綾部友治郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 25〉

フランス文学最初の翻訳者　川島忠之助　富田　仁

「順叔　八戸先生」の消息　福永　郁雄

第二一七号（昭和63年7月号）

土木百年の足跡を辿る（二）
—八十年前の土木界—　高橋　裕

〈海を越えた日本人たちの系譜 26〉

鹿鳴館のヒロイン　井上武子　富田　仁

廻る人力車（其一）　関　泰昭

「順叔　八戸先生」の消息（続）　福永　郁雄

第二一八号（昭和63年8月号）

土木百年の足跡を辿る（三）
—六十年前の土木界—　高橋　裕

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（一）　菊池　重郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 27〉

成島柳北　—シャノワーヌとの邂逅—　富田　仁

ロッシュ仏公使の墓を訪ねる　西堀　昭

第二一九号（昭和63年9月号）

土木百年の足跡を辿る（四）
—昭和初期二〇年間の土木界—　高橋　裕

〈海を越えた日本人たちの系譜 28〉

成島柳北のパリ体験　富田　仁

明治文学とかながわ　小玉　晃一

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（二）　菊池　重郎

第二二〇号（昭和63年10月号）

土木百年の足跡を辿る（五）
—敗戦後の土木界あれこれ—　高橋　裕

「暁星学園」の旧校舎と「明治女学校」　磯崎　嘉治

〈海を越えた日本人たちの系譜 29〉

金沢のフランス留学生たち　富田　仁

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（三）　菊池　重郎

第二二一号（昭和63年11月号）

土木百年の足跡を辿る（六）
—七〇年代以降の土木界—　高橋　裕

〈海を越えた日本人たちの系譜 30〉

ナンシー派の画家　高島北海　富田　仁

明治女学校・九段坂上時代と女性の系譜　磯崎　嘉治

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（四）　菊池　重郎

第二二二号（昭和63年12月号）

国産自転車第一号　宮田栄助のこと　村岡　正明

〈海を越えた日本人たちの系譜 31〉

中江兆民—ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者—（一）　富田　仁

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（五）　菊池　重郎

第二二三号（平成元年1月号）

昭和天皇を偲ぶ　谷川　徹三

サー・ジョージ・サンソムと日本（上）　勝浦　吉雄

〈海を越えた日本人たちの系譜32〉

中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅱ）　富田　仁

日露戦争に関する「機密報告」（前）

―日本軍に配属された英国武官による―　皆川　三郎

第二二四号（平成元年2月号）

明治初期のキリスト教

―岡山県高梁教会堂をめぐって―　小林　忠雄

サー・ジョージ・サンソムと日本（下）　勝浦　吉雄

〈海を越えた日本人たちの系譜33〉

中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅲ）　富田　仁

第二二五号（平成元年3月号）

明治期の絵葉書　澤　まもる

〈海を越えた日本人たちの系譜34〉

中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅳ）　富田　仁

ポーツマスのテーブル（其一）

―日露講和条約締結記念物縁起―　松村　正義

博物館明治村を訪ねて　今井　勇

第二二六号（平成元年4月号）

東海道線百年　小池　滋

ポーツマスのテーブル（其二）

―日露講和条約締結記念物縁起―　松村　正義

〈海を越えた日本人たちの系譜35〉

栗本鋤雲のフランス体験（Ⅰ）　富田　仁

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（六）　菊池　重郎

第二二七号（平成元年5月号）

近代都市の成立と発展（一）

―札幌の創建―　佐藤　馨一

ポーツマスのテーブル（其三）

―日露講和条約締結記念物縁起―　松村　正義

〈海を越えた日本人たちの系譜36〉

栗本鋤雲のフランス体験（Ⅱ）　富田　仁

三春でみたブリタニカ　佐藤　林平

第二二八号（平成元年6月号）

近代都市の成立と発展（二）

―札幌農学校と遠友夜学校―　佐藤　馨一

〈海を越えた日本人たちの系譜37〉

栗本鋤雲のフランス体験（Ⅲ）　富田　仁

竹久夢二（上）　植村　敏夫

第二二九号（平成元年7月号）

竹久夢二（下）　植村　敏夫

〈海を越えた日本人たちの系譜38〉

栗本鋤雲のフランス体験（Ⅳ）　富田　仁

明治村茶会記　松永耳庵翁を偲ぶ茶会　本多　静雄

座談会　「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　松永亀三郎　芦原　義重　田中　精一　永倉　三郎　平岩　外四　竹田弘太郎　本多　静雄

第二三〇号（平成元年8月号）

近代都市の成立と発展（三）

―都市と交通―　佐藤　馨一

〈海を越えた日本人たちの系譜 39〉
山田顕義と木戸孝允
—オテル・ド・ジブラルタルの所在?—　富田　仁
『沈みつ浮きつ』（一）
—明治・大正・昭和の海運人—山下亀三郎　鎌倉　啓三
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（七）　菊池　重郎

第二三一号（平成元年9月号）
道路と町と土木工学（一）—道の系譜—　馬場　俊介
〈海を越えた日本人たちの系譜 40〉
久米邦武のフランス体験（そのⅠ）　富田　仁
『沈みつ浮きつ』（二）
—明治・大正・昭和の海運人—山下亀三郎　鎌倉　啓三
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（八）　菊池　重郎

第二三二号（平成元年10月号）
道路と町と土木工学（二）
—明治の名古屋を中心としてその流れをみる　馬場　俊介
〈海を越えた日本人たちの系譜 41〉
久米邦武のフランス体験（そのⅡ）　富田　仁
明治の企業家精神　福永　郁雄

第二三三号（平成元年11月号）
谷川徹三先生を悼む　竹田弘太郎
谷川徹三さんと茶会　本多　静雄
故谷川徹三理事長をおくる　関野　克
真実を貫いたかた　小掘　杏奴
谷川徹三理事長葬儀における弔詞　阿川　弘之
道路と町と土木工学（三）
—大正・昭和の名古屋　馬場　俊介
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（九）　菊池　重郎

第二三四号（平成元年12月号）
明治交通史の最後を飾ったタクシーの出現（上）　佐々木　烈
〈海を越えた日本人たちの系譜 42〉
久米邦武のフランス体験（そのⅢ）　富田　仁
『沈みつ浮きつ』（三）
山下亀三郎—「実生の樹」—　鎌倉　啓三
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十）　菊池　重郎

第二三五号（平成2年1月号）
葡萄の城　門田　明
明治交通史の最後を飾ったタクシーの出現（中）　佐々木　烈
〈海を越えた日本人たちの系譜 43〉
岩倉使節団の人びと（その一）　富田　仁
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十一）　菊池　重郎

第二三六号（平成2年2月号）
木堂　犬養毅の生家　佐藤　林平
〈海を越えた日本人たちの系譜 44〉
岩倉使節団の人びと（その二）　富田　仁
明治交通史の最後を飾ったタクシーの出現（下）　佐々木　烈
明治八年のスイス紀行（1）
長岡護美（英国留学生）大陸旅行記（A Tour on the Continent）から　長岡　祥三

第二三七号（平成2年3月号）
黒田清輝について　陰里　鉄郎
〈海を超えた日本人たちの系譜 45〉
岩倉使節団の人びと（その三）　富田　仁

明治八年のスイス紀行（2）
長岡護美（英国留学生）大陸旅行記（A Tour on the Continent）から　長岡　祥三
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十二）　菊池　重郎

第二三八号（平成2年4月号）
明治八年のスイス紀行（3）
長岡護美（英国留学生）大陸旅行記（A Tour on the Continent）から　長岡　祥三
〈海を越えた日本人たちの系譜 46〉
岩倉使節団の人びと（その四）　富田　仁
第五回内国勧業博覧会と自動車（上）　佐々木　烈

第二三九号（平成2年5月号）
「明治」と私　遠丸　立
〈海を越えた日本人たちの系譜 47〉
岩倉使節団の人びと（その五）　富田　仁
第五回内国勧業博覧会と自動車（下）　佐々木　烈
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十三）　菊池　重郎

第二四〇号（平成2年6月号）
日本アジア協会のこと（1）　楠家　重敏
〈海を越えた日本人たちの系譜 48〉
岩倉使節団の人びと（その六）　富田　仁
明治初期一女性のキリスト教信仰について（上）
（岡山県高梁教会の一信者の死）　小林　忠雄
明治村茶会帝国ホテル中央玄関席「西天取経」（会記）　本多　静雄

第二四一号（平成2年7月号）
日本アジア協会のこと（2）　楠家　重敏
〈海を越えた日本人たちの系譜 49〉
岩倉使節団の人びと（その七）　富田　仁
不東の草鞋
—「大唐西域記」と玄奘三蔵—　高田　好胤

第二四二号（平成2年8月号）
小泉八雲来日百年に思う　速川　和男
〈海を越えた日本人たちの系譜 50〉
岩倉使節団の人びと（その八）　富田　仁
本邦最初の自動車販売店 モーター商会について（1）　佐々木　烈
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十四）　菊池　重郎

第二四三号（平成2年9月号）
本邦最初の自動車販売店 モーター商会について（2）　佐々木　烈
〈海を越えた日本人たちの系譜 51〉
岩倉使節団の人びと（その九）　富田　仁
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十五）　菊池　重郎

第二四四号（平成2年10月号）**開村二十五周年記念号**
明治村開村二十五年を迎えて　竹田弘太郎
村長ひと言　森繁　久彌
明治村開村二十五年に寄せて　関野　克
新移築建造物紹介
内閣文庫　西尾　雅敏
川崎銀行本店、皇居正門前石橋飾電燈　中浜　寿治
議院への夢
—妻木頼黄と明治の官庁営繕—　村松貞次郎
明治村年譜（昭和60年10月～）

第二四五号（平成2年11月号）
徳冨蘆花の「新春」Ⅰ
—「まりのや」「ぬまや」「ハマナス」—　植村　敏夫

〈海を越えた日本人たちの系譜 52〉
岩倉使節団の人びと（その十）　富田　仁
本邦最初の自動車販売店 モーター商会について（3）　佐々木　烈

第二四六号（平成2年12月号）
徳冨蘆花の「新春」Ⅱ
―「まりのや」「ぬまや」「ハマナス」―　植村　敏夫
〈海を越えた日本人たちの系譜 53〉
岩倉使節団の人びと（その十一）　富田　仁
本邦最初の自動車販売店 モーター商会について（4）　佐々木　烈
明治初期一女性のキリスト教信仰について〔下〕
（岡山県高梁教会の一信者の死）　小林　忠雄

第二四七号（平成3年1月号）
徳冨蘆花の「新春」Ⅲ
―「まりのや」「ぬまや」「ハマナス」―　植村　敏夫
英国で敬愛された日本人
詩人ジャーナリスト 駒井権之助　皆川　三郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 54〉
岩倉使節団の人びと（その十二）　富田　仁
本邦最初の自動車販売店 モーター商会について（5）　佐々木　烈

第二四八号（平成3年2月号）
東京演劇音楽協会
―明治時代の外国人によるアマチュア演劇　長岡　祥三
英国で敬愛された日本人
詩人ジャーナリスト 駒井権之助（続）　皆川　三郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 55〉
岩倉使節団の人びと（その十三）　富田　仁

第二四九号（平成3年3月号）
本邦最初の自動車販売店 モーター商会について（6）　佐々木　烈
〈海を越えた日本人たちの系譜 56〉
岩倉使節団の人びと（その十四）　富田　仁
明治村の時計　井上　健一

第二五〇号（平成3年4月号）
日本アジア協会のこと（3）　楠家　重敏
〈海を越えた日本人たちの系譜 57〉
岩倉使節団の人びと（その十五）　富田　仁
明治村の時計（続）　井上　健一

第二五一号（平成3年5月号）
英国で敬愛された日本人
詩人ジャーナリスト駒井権之助（続二）　皆川　三郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 58〉
岩倉使節団の人びと（その十六）　富田　仁
谷川徹三師を偲ぶ茶会
日本アジア協会のこと（4）　楠家　重敏

第二五二号（平成3年6月号）
明治村茶会座談会
「谷川徹三師を偲ぶ」　本多　静雄　谷川俊太郎　沢田　由治　杉浦　澄子　長谷川公茂　本多　静雄
〈海を越えた日本人たちの系譜 59〉
岩倉使節団の人びと（その十七）　富田　仁

第二五三号（平成3年7月号）
明治の川柳　―日本近代化の利益と戸惑い　藤森　文雄
〈海を越えた日本人たちの系譜 60〉
岩倉使節団の人びと（その十八）　富田　仁
日本アジア協会のこと（5）　楠家　重敏

第二五四号（平成3年8月号）
母を想う　―召天五十年を迎えて―　桜田　久
西郷隆盛とガリバルディ　剣持　武彦
〈海を越えた日本人たちの系譜 61〉
岩倉使節団の人びと（その十九）　富田　仁
日本アジア協会のこと（6）　楠家　重敏

館長就任のごあいさつ　村松貞次郎

第二五五号（平成3年9月号）

明治の文豪と城　井上　宗和

一人の命は全地球より重し
—スマイルズ『西国立志編 原名 自助論』拾遺　井田　好治

〈海を越えた日本人たちの系譜 62〉
岩倉使節団の人びと（その二十）　富田　仁

明治宮殿杉戸絵
—新時代を飾った伝統文化—　関野　克

第二五六号（平成3年10月号）

『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本 1
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　湯本　豪一

英国で敬愛された詩人ジャーナリスト
駒井権之助 晩年の苦悩　皆川　三郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 63〉
岩倉使節団の人びと（その二十一）　富田　仁

原善三郎の事績（一）　勝浦　吉雄

第二五七号（平成3年11月号）

『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本 2
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　湯本　豪一

〈海を越えた日本人たちの系譜 64〉
岩倉使節団の人びと（その二十二）　富田　仁

原善三郎の事績（二）　勝浦　吉雄

佐々木高美について（1）
—花袋の東京英語学校在学説—　沢　豊彦

第二五八号（平成3年12月号）竹田理事長追悼

竹田弘太郎理事長を悼む　村松貞次郎

竹田弘太郎理事長の逝去を悼む　関野　克

竹田さんを偲んで　森繁　久彌

竹田弘太郎さん　杉本　健吉

明治村二代　小堀　杏奴

故竹田理事長を偲ぶ　土川　丈夫

竹田理事長を悼んで　竹内　外茂

〈海を越えた日本人たちの系譜 65〉
岩倉使節団の人びと（その二十三）　富田　仁

第二五九号（平成4年1月号）

『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本 3
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　湯本　豪一

〈海を越えた日本人たちの系譜 66〉
岩倉使節団の人びと（その二十四）　富田　仁

原善三郎の事績（三）　勝浦　吉雄

佐々木高美について（2）
—花袋の東京英語学校在学説—　沢　豊彦

第二六〇号（平成4年2月号）

『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本 4
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　湯本　豪一

〈海を越えた日本人たちの系譜 67〉
岩倉使節団の人びと（その二十五）　富田　仁

原善三郎の事績（四）　勝浦　吉雄

日本アジア協会のこと（7）　楠家　重敏

第二六一号（平成4年3月号）

『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本 5
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　湯本　豪一

〈海を越えた日本人たちの系譜 68〉
岩倉使節団の人びと（その二十六）　富田　仁

原善三郎の事績（五）　勝浦　吉雄

佐々木高美について（3）
—花袋の東京英語学校在学説—　沢　豊彦

第二六二号（平成4年4月号）

種田政明の系譜　赤瀬　雅子

〈海を越えた日本人たちの系譜 69〉
岩倉使節団の人びと（その二十七）　富田　仁

原善三郎の事績（六）　勝浦　吉雄

佐々木高美について（4）
—花袋の東京英語学校在学説—　沢　豊彦

第二六三号（平成4年5月号）

久米桂一郎と黒田清輝　佐藤　良雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 70〉
岩倉使節団の人びと（その二十八）　富田　仁

佐々木高美について（5）
―花袋の東京英語学校在学説―　沢　豊彦

菅虎雄書扁額『我猫庵』について

第二六四号（平成4年6月号）

清水東谷の実像 1
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 71〉
岩倉使節団の人びと（その二十九）　富田　仁

明治村茶会「宝暦治水、孤愁の岸」　本多　静雄

明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈上〉　鷲見　房子　杉本　苑子　杉本　健吉　本多　静雄

第二六五号（平成4年7月号）

清水東谷の実像 2
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 72〉
岩倉使節団の人びと（その三十）　富田　仁

明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈下〉　鷲見　房子　杉本　苑子　杉本　健吉　本多　静雄

第二六六号（平成4年8月号）

清水東谷の実像 3
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 73〉
岩倉使節団の人びと（その三十一）　富田　仁

原善三郎の事績（七）　勝浦　吉雄

第二六七号（平成4年9月号）

清水東谷の実像 4
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 74〉
岩倉使節団の人びと（その三十二）　富田　仁

原善三郎の事績（八）　勝浦　吉雄

第二六八号（平成4年10月号）

父　桜田助作の想い出
―五十回忌を迎えるに当って―　桜田　久

〈海を越えた日本人たちの系譜 75〉
岩倉使節団の人びと（その三十三）　富田　仁

清水東谷の実像 5
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二六九号（平成4年11月号）

清水東谷の実像 6
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 76〉
岩倉使節団の人びと（その三十四）　富田　仁

第二七〇号（平成4年12月号）

清水東谷の実像 7
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

〈海を越えた日本人たちの系譜 77〉
岩倉使節団の人びと（その三十五）　富田　仁

原善三郎の事績（九）　勝浦　吉雄

第二七一号（平成5年1月号）

一枚の写真から　鎌倉　啓三

清水東谷の実像 8
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄
〈海を越えた日本人たちの系譜 78〉
岩倉使節団の人びと（その三十六）　富田　仁
原善三郎の事績（十）　勝浦　吉雄

第二七二号（平成5年2月号）
抱月のイギリス（一）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 79〉
岩倉使節団の人びと（その三十七）　富田　仁
清水東谷の実像 9
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄
明治の唱歌と西洋歌曲（い）
『明治唱歌』―大和田建樹・奥好義選―　川崎　宏

第二七三号（平成5年3月号）
抱月のイギリス（二）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 80〉
岩倉使節団の人びと（その三十八）　富田　仁
清水東谷の実像 10
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二七四号（平成5年4月号）
抱月のイギリス（三）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 81〉
岩倉使節団の人びと（その三十九）　富田　仁
清水東谷の実像 11
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二七五号（平成5年5月号）
抱月のイギリス（四）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 82〉
岩倉使節団の人びと（その四十）　富田　仁
清水東谷の実像 12
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二七六号（平成5年6月号）
抱月のイギリス（五）　岩佐壮四郎
第二十七回明治村茶会座談会　本多　静雄
明治村茶会座談会
「新・平家物語に因む茶会」　吉川　文子　杉本　健吉　沢田　由治　本多　静雄

第二七七号（平成5年7月号）
明治の日本を描いた二人の女流作家
―ダヌタン男爵夫人とフレイザー夫人　長岡　祥三
〈海を越えた日本人たちの系譜 83〉
岩倉使節団の人びと（その四十一）　富田　仁
清水東谷の実像 13
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二七八号（平成5年8月号）
抱月のイギリス（六）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 84〉
岩倉使節団の人びと（その四十二）　富田　仁
清水東谷の実像 14
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二七九号（平成5年9月号）
抱月のイギリス（七）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 85〉
岩倉使節団の人びと（その四十三）　富田　仁
清水東谷の実像 15
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄
英学史研究への招待
―明治村大会に際して―　速川　和男

第二八〇号（平成5年10月号）

別子銅山と塩野門之介
—フランス鉱山技術導入の一軌跡—　滑川　明彦

抱月のイギリス（八）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 86〉
岩倉使節団の人びと（その四十四）　富田　仁

清水東谷の実像 16
シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　倉島　幸雄

第二八一号（平成5年11月号）

明治女学校と千代田区
—創立の地に念願の記念碑建立を—　磯崎　嘉治

抱月のイギリス（九）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 87〉
岩倉使節団の人びと（その四十五）　富田　仁

小泉八雲と唱歌「広瀬中佐」
—大和田建樹作詞『広瀬中佐』—　川崎　宏

第二八二号（平成5年12月）

明治五年太陽暦の初正月　佐藤　良雄

抱月のイギリス（十）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 88〉
岩倉使節団の人びと（その四十六）　富田　仁

第二八三号（平成6年1月号）

「君看双眼色　不語似無愁」をめぐって
—芥川・漱石・良寛・白隠—　井田　好治

抱月のイギリス（十一）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 89〉
岩倉使節団の人びと（その四十七・四十八）　富田　仁

第二八四号（平成6年2月号）

抱月のイギリス（十二）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 90〉
岩倉使節団の人びと（その四十九）　富田　仁

ジョン万次郎の生涯 1
—日米交流の原点—　中浜　寿治

第二八五号（平成6年3月号）

抱月のイギリス（十三）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 91〉
岩倉使節団の人びと（その五十）　富田　仁

小泉八雲と唱歌「広瀬中佐」
—大和田建樹作詞『広瀬中佐』—（補遺）　川崎　宏

第二八六号（平成6年4月号）

パークス・正成・漱石 一
（桜井の駅の巻 一）　中野　記偉

岡本一平の父・竹二郎について　湯本　豪一

抱月のイギリス（十四）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 92〉
岩倉使節団の人びと（その五十一）　富田　仁

第二八七号（平成6年5月号）

パークス・正成・漱石 二
（桜井の駅の巻 二）　中野　記偉

抱月のイギリス（十五）　岩佐壮四郎

〈海を越えた日本人たちの系譜 93〉
岩倉使節団の人びと（その五十二）　富田　仁

ジョン万次郎の生涯 2
—日米交流の原点—　中浜　寿治

第二八八号（平成6年6月号）

第二十八回明治村茶会
明治村茶会座談会　「竹田弘庵を偲ぶ茶会」　本多　静雄　梶井　健一　沢田　由治　竹田　新　本多　静雄

第二八九号（平成6年7月号）

パークス・正成・漱石 三
（桜井の駅の巻 三）　中野　記偉

抱月のイギリス（十六）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 94〉
岩倉使節団の人びと（その五十三）　富田　仁
ジョン万次郎の生涯 3
―日米交流の原点―　中浜　寿治

第二九〇号（平成6年8月号）
パークス・正成・漱石 四
（新学制の小学校 巻の一）　中野　記偉
抱月のイギリス（十七）　岩佐壮四郎
五稜郭とフランス　滑川　明彦
〈海を越えた日本人たちの系譜 95〉
岩倉使節団の人びと（その五十四）　富田　仁

第二九一号（平成6年9月号）
パークス・正成・漱石 五
（新学制の小学校 巻の二）　中野　記偉
抱月のイギリス（十八）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 96〉
岩倉使節団の人びと（その五十五）　富田　仁

第二九二号（平成6年10月号）
パークス・正成・漱石 六
（新学制の小学校 巻の三）　中野　記偉
抱月のイギリス（十九）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 97〉
岩倉使節団の人びと（その五十六）　富田　仁
ジョン万次郎の生涯 4
―日米交流の原点―　中浜　寿治

第二九三号（平成6年11月号）
パークス・正成・漱石 七
（新学制の小学校 巻の四）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 98〉
岩倉使節団の人びと（その五十七）　富田　仁
〈余録〉百年前の明治　川崎　宏

第二九四号（平成6年12月号）
パークス・正成・漱石 八
（新学制の小学校 巻の五）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十一）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 99〉
岩倉使節団の人びと（その五十八）　富田　仁
ジョン万次郎の生涯 5
―日米交流の原点―　中浜　寿治

第二九五号（平成7年1月号）
パークス・正成・漱石 九
（新学制の小学校 巻の六）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十二）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 100〉
岩倉使節団の人びと（その五十九）　富田　仁
〈余録〉まなびやのいしぶみ
穂積陳重歌碑のこと　川崎　宏

第二九六号（平成7年2月号）
パークス・正成・漱石 十
（桜井の駅址再訪 巻の一）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十三）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 101〉
岩倉使節団の人びと（その六十）　富田　仁
ジョン万次郎の生涯 6
―日米交流の原点―　中浜　寿治

第二九七号（平成7年3月号）
パークス・正成・漱石 十一
（桜井の駅址再訪 巻の二）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十四）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 102〉
岩倉使節団の人びと（その六十一）　富田　仁
ジョン万次郎の生涯 7
―日米交流の原点―　中浜　寿治

第二九八号（平成7年4月号）
パークス・正成・漱石 十二
（桜井の駅址再訪 巻の三）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十五）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 103〉
岩倉使節団の人びと（その六十二）　富田　仁

第二九九号（平成7年5月号）
パークス・正成・漱石 十三
（倫敦塔の内と外 巻の一）　中野　記偉
三宮夫人の扇　長岡　祥三
抱月のイギリス（二十六）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 104〉
岩倉使節団の人びと（その六十三）　富田　仁

第三〇〇号（平成7年6・7・8月号）**終刊号**
パークス・正成・漱石 十四
（倫敦塔の内と外 巻の二・三・四）　中野　記偉
抱月のイギリス（二十七）　岩佐壮四郎
〈海を越えた日本人たちの系譜 105〉
岩倉使節団の人びと（その六十四）　富田　仁
兵庫開港とゴーブル　川島第二郎
厨川白村の「悪魔の宗教」
—Divinity of hell!—　井田　好治
野田宇太郎さんの文学碑　八木福次郎
明治村と明治村通信　佐藤　良雄

わが生い立ちの地横浜の明治と戦後を想う　小林　功芳
明治のやさしさ
—漱石・百間・由三郎—　速川　和男
ジョン万次郎の生涯 8
—日米交流の原点—　中浜　寿治
第二十九回明治村茶会　本多　静雄
明治村茶会座談会
「加藤唐九郎を偲ぶ茶会」　加藤　重高
加藤　清之
西尾　雅敏
本多　静雄
「明治村通信」終刊の弁　川崎　宏

執筆者索引

相川　之英
桑港からの書簡　一七二
桑港からの書簡（承前）　一七三

赤瀬　雅子
夏目漱石と早稲田南町界隈　五九
続・夏目漱石と早稲田南町界隈　六二
牛込矢来町界隈　―柳浪、和郎のことなど―　一六〇
永井荷風と上海　一八二
種田政明の系譜　二六二

阿川　弘之
谷川徹三理事長葬儀における弔詞　二三三

秋山　寿延
明治時代の裁判所について　―京都地裁宮津支部旧庁舎の明治村移築に寄せて―　八一

浅田　寛厚
小山内薫とブランダー・マシウズ　二二

芦原　義重
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　二二九

吾妻　徳穂
明治村茶会へのお招き　二一四

綾部　友治郎
紅葉館（其一）　二一五
紅葉館（其二）　二一六

荒井　義雄
梅子と清雄（上）　―明治初期英学少女と画学青年川村清雄―　一一三
梅子と清雄（下）　―明治初期英学少女と画学青年川村清雄―　一一四
私の野田さん　一七〇

荒垣　秀雄
大隈重信の思出　二五
飛騨の山里の明治　八八
明治の飛騨の正月　一〇三
四つの思い出　一〇五
田村先生と北山川の筏下り　一一四
「銀行」の名付親　一五七
「野田山脈」の文学散歩　一七〇

荒牧　金光
川上音二郎と初の児童劇公演の周辺　六四
曾我廼家喜劇の誕生　七八

有光　次郎
明治村百感　第百号に寄せて　一〇〇
田内静三常務理事葬儀における弔辞　一〇〇

安藤　はる子
久しぶりの明治村　一三七

安藤　守人
蝸牛庵の移築にあたって　二四

飯田　喜四郎
城戸先生をいたむ　一一六

井形　卓三
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

池田　哲郎
明治文庫を造ろう　―明治村への提言―　二〇
明治名士評判記　一六一

池田　彌三郎
明治村百感　一〇〇

池野　誠
松江の小泉八雲　四八

石川　達三
移民記念館・その他　五七

石川　悌二
東京の橋（上）—江戸っ子と橋—　九一
東京の橋（下）—東京と石橋（上）—　九四
東京の橋（下）—東京と石橋（下）—　九五

石坂　泰三
土川さんを悼んで　四五

石崎　忠八
大津事件—明治二十四年五月—　一五五
明治天皇のももひき　一六一

石田　アヤ
明治末頃の洋風生活の家　九九

石田　幹之助
明治村で一番親しい建物　九
明治村で一番親しい建物（追記）　一〇

石中　象治
冒険旅行　二一
竹添井井の四川旅行—海舟と井井—　三一
漱石の異色の弟子—エリセーフについて—　四一
ケーベルについて　五三
「蝶々夫人」その他　六八

和泉　正雄
明治村百感　一〇〇
明治村創立二十年によせて　一八三・一八四

磯崎　嘉治
巌本善治のこと
若松賤子生誕百二十年に思う—城北の連環探訪—　一六三
林勇氏—小諸市立藤村記念館名誉館長—九十八歳の生涯を偲ぶ　一七四
松井須磨子と青柳有美
巌本善治連環探訪の一齣　一九七
巌本範治と明治女学校の人脈（上）
巌本善治連環探訪の一齣　二〇三
巌本範治と明治女学校の人脈（下）
巌本善治連環探訪の一齣　二〇五
「明治女学校」をめぐる作品群の形成（上）
巌本善治連環探訪の一齣　二一一
「明治女学校」をめぐる作品群の形成（中）
巌本善治連環探訪の一齣　二一三
「明治女学校」をめぐる作品群の形成（下）
巌本善治連環探訪の一齣　二一四
「暁星学園」の旧校舎と「明治女学校」　二二〇
明治女学校・九段坂上時代と女性の系譜　二二一
明治女学校と千代田区
—創立の地に念願の記念碑建立を—　二八一

井田　好治
「敬天愛人」の系譜—南洲と敬宇と康熙帝—　一五五
ロンドンの漱石と田中孝太郎の手紙　一七六
一人の命は全地球より重し
—スマイルズ『西国立志編　原名　自助論』拾遺—　二五五
「君看双眼色　不語似無愁」をめぐって
—芥川・漱石・良寛・白隠—　二八三
厨川白村の「悪魔の宗教」
—Divinity of hell !—　三〇〇

市川　為雄
谷口博士をしのぶ　一〇五

市島　成一
洛陽寒く黄昏れて　四五
私の明治　九八
明治村百感　一〇〇

逸見　久美
シアトルと翁久允　一七三

出　利夫
人形師点描　八三

伊藤　昌子
郡制度の変遷と地方制度〔一〕　二〇一
郡制度の変遷と地方制度〔二〕　二〇二
郡制度の変遷と地方制度〔三〕
「東山梨郡役所」内『郡制度資料室』展示資料について　二〇三

伊藤　信吉
詩碑のほとりの回想　一〇六

伊藤　延男
明治村百感　一〇〇

伊藤　宏見
林董と釈興然　三七
知られざる島村抱月の故地（Ⅰ）　五〇
知られざる島村抱月の故地（Ⅱ）　五一
知られざる島村抱月の故地（Ⅲ）　五二

伊藤　三千雄
西洋建築点描 2
亀山製糸室山工場（旧伊藤製糸所）　一一一
西洋建築点描 3　蓬莱別館（旧南葵文庫）　一一三

稲岡　勝
漱石と版権免許　一九四

稲垣　栄三
「帝国ホテルを守る会」のころ　一八三・一八四

犬丸　直
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

犬丸　徹三
関東大震災と帝国ホテル　一一〇

井上　健一
明治村の時計　二四九
明治村の時計（続）　二五〇

井上　信夫
明治村の古時計　―修理復元の記録―　二七

井上　萬壽藏
感懐あれこれ　三
大隈重信侯と国鉄創業について　二五
明治の鉄道展について　二九
鉄道錦絵について　二九

井上　宗和
明治の文豪と城　二五五

井上　靖
明治の資料　一

猪熊　弦一郎
明治村百感　明治村を愛して　一〇〇
明治時代の民話　たぬき　一〇一

今井　勇
博物館明治村を訪ねて　二二五

今井　猛雄
谷口吉郎君を偲びて　一〇五

今井　輝子
近代日本の海外移住事始
―「元年者」ハワイ移民　一六八

今井　良朗
近代日本のポスター
―美人画ポスターと石版印刷―　一六一

今泉　篤男
近岡善次郎画伯の明治建築を描いた作品展覧会　六三

入江　相政
皇居の桜　九四
梅が香　一〇五

岩城　之徳
本郷弓町時代の啄木
―明治四十三年を中心に―　一一七

岩切　章太郎
明治村百感　一〇〇

岩佐　壮四郎
抱月のイギリス（一）　二七二
抱月のイギリス（二）　二七三
抱月のイギリス（三）　二七四
抱月のイギリス（四）　二七五
抱月のイギリス（五）　二七六
抱月のイギリス（六）　二七八
抱月のイギリス（七）　二七九
抱月のイギリス（八）　二八〇
抱月のイギリス（九）　二八一
抱月のイギリス（十）　二八二
抱月のイギリス（十一）　二八三
抱月のイギリス（十二）　二八四
抱月のイギリス（十三）　二八五
抱月のイギリス（十四）　二八六
抱月のイギリス（十五）　二八七
抱月のイギリス（十六）　二八九
抱月のイギリス（十七）　二九〇
抱月のイギリス（十八）　二九一
抱月のイギリス（十九）　二九二
抱月のイギリス（二十）　二九三
抱月のイギリス（二十一）　二九四
抱月のイギリス（二十二）　二九五
抱月のイギリス（二十三）　二九六
抱月のイギリス（二十四）　二九七
抱月のイギリス（二十五）　二九八
抱月のイギリス（二十六）　二九九
抱月のイギリス（二十七）　三〇〇

岩津　資雄
明治村行　一五二

上田　宏
北里柴三郎先生について　一二四

上野　景福
〈明治史料再検あれこれ〉一　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（上）　一六五
〈明治史料再検あれこれ〉二　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（中の上）　一六六
〈明治史料再検あれこれ〉三　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（中の下）　一六七
〈明治史料再検あれこれ〉四　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（下の上）　一六八
〈明治史料再検あれこれ〉五　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（下の中）　一六九
〈明治史料再検あれこれ〉六　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使（下の下）　一七一
〈明治史料再検あれこれ〉七　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使
補遺（一）人選の理由　一八二
〈明治史料再検あれこれ〉八　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使
補遺（二）御用金　一八五

〈明治史料再検あれこれ〉九　明治政府外交事始
ハワイ王朝に派遣の談判特使
補遺（三）帰国までの出費　一八六

植村　清二
「西遊記」と「法顕伝」　二四
木村先生と僕と　一一三
「半月集」について　一四七
紅葉の書簡　一六三

植村　敏夫
谷口吉郎先生を偲ぶ　一〇五
竹久夢二（上）　二二八
竹久夢二（下）　二二九
徳冨蘆花の「新春」Ⅰ
―「まりのや」「ぬまや」「ハマナス」―　二四五
徳冨蘆花の「新春」Ⅱ
―「まりのや」「ぬまや」「ハマナス」―　二四六
徳冨蘆花の「新春」Ⅲ
―「まりのや」「ぬまや」「ハマナス」―　二四七

内田　英二
谷口吉郎氏と慶応義塾幼稚舎　一〇五

梅村　魁
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

江川　昇
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

江口　清
秋田雨雀を偲んで　一三二
堀口大学先生と私　一三八

江藤　淳
死者の家　一〇六

海老原　一郎
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

江馬　務
京都大学における幸田露伴先生の講義　二四

遠藤　武
アンパンと洋服　八
明治村百感　すばらしい明治村　一〇〇

遠藤　楽
帝国ホテルの建築に寄せて　一八三・一八四

大岡　實
明治村の印象　一八八

大久保　利謙
明治村百感　明治村讃　一〇〇
谷口吉郎氏を偲ぶ　一〇五
木村毅先生の逝去をいたみて　一一六

大島　吉之助
幸田露伴先生雲錦之帖序の由来　六一

大島　正
ある幕臣の子孫　五〇
〃藤野厳九郎〃先生　余談（上）
―非凡なる敗残―　六三
〃藤野厳九郎〃先生　余談（下）
―非凡なる敗残―　六四

太田　三郎
明治と外国文学1　英米文学と文明開化　一〇
小泉八雲の日本観　四八
ブラジルの日本語文学　五八
ウイリアム・ジオンズ日本滞在の一ヵ月（上）　七五
ウイリアム・ジオンズ日本滞在の一ヵ月（下）　七六

太田　茂比佐
風貌　一七〇

太田　博太郎
開村の日　一一七

太田　臨一郎
明治の制服余話　一四九

大塚　恭男
北里とコッホとベーリング　一二四

大鳥　蘭三郎
ロベルト・コッホ　一二四

大橋　又太郎
素人写真談　一四一

大村　喜吉
明治の人・明治のことば　三五
小泉八雲と夏目漱石　四八

岡　保生
露伴と紅葉　―紀行文から―　二四
小栗風葉　―その時代　一八七
小栗風葉　―その伝記（1）　一八八
小栗風葉　―その伝記（2）　一八九
小栗風葉　―その作品　一九〇
小栗風葉　―その人物　一九一
風葉伝の新資料　―半田学校の学籍簿―　一九〇
小栗風葉と太田乙平　一九六

岡沢　秀甫
品川燈台と菅島燈台　一九
燈台余話　四四
小那沙美島燈台　八九
燈台と燈明台　一二七

岡田　譲
「清姫」拝見記　七二
団子坂界隈　八八
明治村百感　一〇〇
谷口さんと美術館　一〇五

尾形　明子
〈明治の女〉遠藤清子の生涯　四四

緒方　富雄
明治村百感　明治の町と明治の空気を　一〇〇
谷口君とわたし　―装幀と記念碑とを通じて―　一〇五
医学館の展示　一二四

尾形　裕康
新島先生と明治の学制　三六

岡野　澄
明治村百感　一〇〇

岡野　他家夫
明治と明治文化　四

岡本　文弥
明治の新内など　八八

岡本　昌夫
同志社における明治の建物　一七

沖津　ミサ子
森鷗外とアナトール・フランス（上）　六八
森鷗外とアナトール・フランス（下）　六九

小口　喜久二
明治村へのホテル史料の寄贈について　一五三

小河　織衣
日本における速記の由来について
―若林玵蔵のこと―　四〇

尾崎　一雄
大隈重信と早稲田大学　二五

尾崎　安
兎に角私は感じた　―北原白秋「思ひ出」の思いで　一八〇

小澤　明子
八雲研究と諸家の憶い出　四八

小沢　健志
明治の写真家たち　一四一

小田桐　弘子
明治村を訪れて　一三〇

小幡　祥一郎
追慕　一〇五

陰里　鉄郎
黒田清輝について　二三七

影山　昇
少年正岡子規と松山での学校教育　七九

梶井　健一
明治村百感　平和の楽しさ　一〇〇
明治村茶会座談会　「竹田弘庵を偲ぶ茶会」　二八八

梶谷　泰之
ハーンとモラエスと畠山勇子　四八

勝　海舟
古今小説談　二四

勝浦　吉雄
明治のマーク・トウェイン紹介者たち　三二
サー・ジョージ・サンソムと日本（上）　二二三
サー・ジョージ・サンソムと日本（下）　二二四
原善三郎の事績（一）　二五六
原善三郎の事績（二）　二五七
原善三郎の事績（三）　二五九
原善三郎の事績（四）　二六〇
原善三郎の事績（五）　二六一
原善三郎の事績（六）　二六二
原善三郎の事績（七）　二六六
原善三郎の事績（八）　二六七
原善三郎の事績（九）　二七〇
原善三郎の事績（十）　二七一

桂　芳久
北島多一博士　一二四

加藤　乙三郎
明治村百感・続　明治の人びとの驚き　一〇二

加藤　清之
明治村茶会座談会　「加藤唐九郎を偲ぶ茶会」　三〇〇

加藤　重高
明治村茶会座談会　「加藤唐九郎を偲ぶ茶会」　三〇〇

加藤　延雄
新島襄と改造　三六

門田　明
葡萄の城　二三五

狩野　近雄
最後の正月餅　四五

樺島　正二
亡き父のこと　五八

兜木　総一
玉藻探勝会　明治村吟行　一三四

鎌倉　啓三
『沈みつ浮きつ』（一）
―明治・大正・昭和の海運人―山下亀三郎　二三〇
『沈みつ浮きつ』（二）
―明治・大正・昭和の海運人―山下亀三郎　二三一
『沈みつ浮きつ』（三）
山下亀三郎―「実生の樹」―　二三四
一枚の写真から　二七一

上村　直己
玉井喜作と独文雑誌『東亜』　一五〇
ドイツ学者　平塚定二郎　一五四
若き日の丸山通一
『独逸音声学大意』（明34）の出版まで　一六二
一高ドイツ語教師・福間博
―鷗外「二人の友」のF君―　一六九
良教師パウル・エーマン　一七八
エルドマンスデルフェルと五高不敬事件　一八一
東京大学予備門教師F・プッチール
医学ドイツ語学者　高橋金一郎　二〇七
ハインリヒ・ヴォルトマンの「明治34年熊本―別府徒歩旅行」　二一五

神谷　和郎
博物館「明治村」とのえにし　一九一

亀井　斐子
よいお墓をつくって頂いて　一〇六

亀井　武
小西と浅沼　一四一

亀山　巌
民芸大会印象記　七五

加茂　儀一
明治村参観記　五
明治村を見て思うこと　八一

嘉門　安雄
心のぬくみにふれて
―谷口さんの思い出の中から―　一〇五

河北　倫明
谷口さんの思い出　一〇五
竹久夢二展によせて　二一四

川崎　秀二
民衆政治教育者・大隈重信　二五

川崎　宏
露伴と写真　二四
幸田露伴略年譜　二四
中野逍遥のこと（一）
―『逍遥遺稿』をめぐって―　三三
海舟の書と新島襄　三六
松山初子氏寄贈のオルガンについて　一一二
古橋懐古館明治の墨蹟展　鈔録（其一）　一五六
古橋懐古館明治の墨蹟展　鈔録（其二）　一五七
古橋懐古館明治の墨蹟展　鈔録（其三）　一五九
宋伯胤「日本露天博物館明治村漫歩」補註　一五八
実践女学校に学んだ清国留学生秋瑾女士　一八六
明治の唱歌と西洋歌曲（い）
『明治唱歌』―大和田建樹・奥好義選―　二七二
小泉八雲と唱歌「広瀬中佐」
―大和田建樹作詞『広瀬中佐』―　二八一
小泉八雲と唱歌「広瀬中佐」
―大和田建樹作詞『広瀬中佐』―（補遺）　二八五

〈余録〉百年前の明治　二九三
〈余録〉まなびやのいしぶみ　穂積陳重歌碑のこと　二九五
「明治村通信」終刊の弁　三〇〇

川島　第二郎
兵庫開港とゴーブル　三〇〇

川島　武宜
明治村百感　一〇〇
谷口先生の情熱と明治村の運営　一〇七

川幡　留司
明治村を訪れて　一〇三

河原　英雄
徳冨蘆花と粕谷　一五九

川村　純二
西郷隆盛所用の金時計　一一九

河盛　好蔵
続　明治村百感　外国人にぜひ見せたい　一〇一

上林　吾郎
明治村百感　一〇〇
私の悔い　一〇六

菊池　明
河原崎座の再興と九代目市川団十郎　一〇九

菊池　重三郎
村に置てある私の青春　一〇五

菊池　重郎
もしも明治村がなかったら　明治村の事始　一
日本最古の工業雑誌　―中外工業新報と工部省工作局―　二
煉瓦の壁（上）　九
煉瓦の壁（下）　一〇
鋲力ということ（上）　一四
鋲力ということ（中）　訳語「馬口鉄」「鉄葉」の出現　一五
鋲力ということ（下）　明治生まれの漢字「鋲力」　一六
鋲力ということ（補遺）　―銀座煉瓦街とブリッキ　二二
明治村七年の移築建物（上）　―昭和四十六年に着工する建物　一八
明治村七年の移築建物（中）　―昭和四十六年に着工する建物　一九
明治村七年の移築建物（下）　―昭和四十六年に着工する建物　二〇
東京駅巡査交番所（追記）　―日本一の交番ということ　二三
鉄の柱とウォートルス（上）　二七
鉄の柱とウォートルス（中）　二八
鉄の柱とウォートルス（中の2）　二九
鉄の柱とウォートルス（中の3）　三一
鉄の柱とウォートルス（下）　三二
欅のカテドラル　京都聖ザビエル天主堂　三四
アンデルソン小考（上）　同姓同名のお雇い外国人をめぐって　四一
アンデルソン小考（中）　同姓同名のお雇い外国人をめぐって　四四
アンデルソン小考（下）　同姓同名のお雇い外国人をめぐって　四九
アンデルソン小考　補遺　五二
日本赤十字社中央病院病棟　四七
明治の建築材料　一戸清方の「工業材料論」など　五四
日赤病院のシンボル　木彫「赤十字と桐竹鳳凰」　五五
隈田川　新大橋　五七

ポンティスト 五九
橋の建築家 隅田川新大橋と福田重義 六二
明治船載建築技術書 スウェイトのイギリス工場建物衛生安全論ノート（上） 六七
明治船載建築技術書 スウェイトのイギリス工場建物衛生安全論ノート（中） 七一
明治船載建築技術書 スウェイトのイギリス工場建物衛生安全論ノート（下） 七二
東京の眼鏡橋（上）—明治初年めがね橋の東漸 七四
東京の眼鏡橋（下）—明治初年めがね橋の東漸 七七
今年の移築公開建物（上） 八〇
今年の移築公開建物（下） 八一
移築公開余録 八二
横浜発掘 古製の鉄軌条（上） 八三
横浜発掘 古製の鉄軌条（中） 八四
横浜発掘 古製の鉄軌条（下） 八五
一枚の古写真 八七
工部大学校百年（上）—現存最古のキャビタル— 九〇
工部大学校百年（中） 九一
工部大学校百年（下） 九二
洋風建築の木目塗 ペンキ塗装（上）
博物館明治村にある木目塗 九三
洋風建築の木目塗 ペンキ塗装（下）
博物館明治村にある木目塗 九四
東京下町の景物 硝子の金魚鉢閑話（上） 九八
東京下町の景物 硝子の金魚鉢閑話（下） 九九
続 明治村百感 原点回帰 一〇一
アーネスト・F・フェノロサ来日百年 一〇二
谷口吉郎先生の御逝去を悼む 一〇五
明治の大地震 濃尾地震惨害の一例 一一一
西洋建築点描 4
日本水準原点 —その石造洋風覆屋 一一五
座談会「明治村の十五年」 一一七
移築公開建造物三件
宗教大学車寄 本郷喜之床 半田東湯 一一七
工学創始（上） 一八八〇年と「工学叢誌」の創刊 一一八
工学創始（下） 一八八〇年と「工学叢誌」の創刊 一一九
時計台 一二〇
西郷従道の西洋体験（上） 一二二
西郷従道の西洋体験（下） 一二三
北里研究所本館・医学館の建築 一二四
明治村医学館展示の顕微鏡案内 一二六
欧米新建築のプレート図集 「モダン・アーキテクチュア」について 一二八
月刊図集「近世建築」（上） 一三〇
月刊図集「近世建築」（下） 一三一
『セセッション図案集』（上）
特にその「外観之部」の初刊年代について 一三五
『セセッション図案集』（下）
特にその「外観之部」の初刊年代について 一三六
出版社「洪洋社」の創立と大正初年の出版活動（上） 一三九
出版社「洪洋社」の創立と大正初年の出版活動（下） 一四〇
写真館の移築と写真閑話（上） 一四一
写真館の移築と写真閑話（中） 一四二
写真館の移築と写真閑話（下） 一四三
洋風建築装飾ひながた図集（上）
明治三十年代の一プレート集の刊行 一四四
洋風建築装飾ひながた図集（下）
明治三十年代の一プレート集の刊行 一四五
木葉会の明治期に刊行した建築プレート図集 上 一四八
木葉会の明治期に刊行した建築プレート図集 中 一五一
木葉会の明治期に刊行した建築プレート図集 下 一五三
洋風社の『建築写真類聚』の創刊 一 一五七
洋風社の「建築写真類聚」の創刊 二
—大正初年の住宅史料として 福島行信邸について— 一六〇
洋風社の『建築写真類聚』の創刊 三
—大正初年の住宅史料として 建築家の家
コンドル邸・辰野邸・妻木邸 一六一
洋風社『建築写真類聚』の創刊 四
—明治末大正初年の住宅史料として
横浜山手のテンプル・コート 一六四

洪洋社の『建築写真類聚』の創刊　五
—福島行信邸補遺　一六七
野田さんを悼む　一七〇
幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（一）　一七一
幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（二）　一七四
幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（三）　一七五
幻の邦訳・日本語版『フランク・ロイド・ライト作品集』の探索（四）　一七六
シアトル日系福音教会（旧シアトル住宅）　一七二
博物館明治村の四半世紀　一八三・一八四
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（一）　一八九
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（二）　一九〇
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（三）　一九一
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（四）　一九二
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（五）　一九三
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（六）　一九五
野外博物館と日本　特に「スカンセン」と日本（七）　一九六
野外博物館と日本（補遺）　一九七
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（一）　一九九
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（二）　二〇〇
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（三）　二〇三
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（四）　二〇六
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（五）　二〇八
『フランク・ロイド・ライトの建築論』と遠藤新の翻訳（六）　二一〇
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（一）　二一八
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（二）　二一九
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（三）　二二〇
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（四）　二二一
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（五）　二二二
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（六）　二二六
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（七）　二三〇
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（八）　二三一
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（九）　二三三
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十）　二三四
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十一）　二三五
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十二）　二三七
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十三）　二三九

ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十四）　二四二
ライト設計の帝国ホテルに関し当時、アメリカ人建築家がわが国の日刊英字新聞紙上で花々しく論争していた事に就て（十五）　二四三

岸上　英幹
神田乃武と正則予備校　一六三

北垣　あつし
上田敏とイソップ寓話　三一
日本の小学校修身書とイソップの寓話　四二
鷗外の「舞姫」「うたかたの記」の足跡を辿って（上）　五四
鷗外の「舞姫」「うたかたの記」の足跡を辿って（下）　五五
水戸と伊曾保物語　六六

喜多川　周之
明治の末っ子新大橋　五七

北見　俊郎
文明開化と港　三一

城戸　久
菅島灯台のあたり　一
土川さんを偲ぶ　四五
明治村百感　一〇〇
谷口館長をしのぶ　一〇五

木村　毅
アメリカ最古の日本木造建築　一
明治の年号　―明治村の意義―　三
大隈寸描　二五
聖ザビエル教会遷座　三四
残るもの　四五
ラフカディオ・ヘルン素描　四八
明治村版　アメリカ物語（一）　七〇
明治村版　アメリカ物語（二）　七一
明治村版　アメリカ物語（三）　七二
明治村版　アメリカ物語（四）　七三
明治村版　アメリカ物語（五）　七四
明治村版　アメリカ物語（六）　七五
明治村版　アメリカ物語（七）　七六
明治英語ものがたり（一）　八三
明治英語ものがたり（二）　八四
明治英語ものがたり（三）　八五
明治英語ものがたり（四）　八六
明治英語ものがたり（五）　八七
明治英語ものがたり（六）　九〇
わが生家に題す　九一
宿屋のはなし（一）　九七
宿屋のはなし（二）　九八
宿屋のはなし（三）　九九
宿屋のはなし（四）　一〇一
宿屋のはなし（五）　一〇二
宿屋のはなし（六）　一〇三
宿屋のはなし（七）　一〇四
宿屋のはなし（八）　一〇七
明治村百感　村会議員の感想　一〇〇
茶目ッ子的一面　一〇五

木村　義雄
露伴翁の将棋　二四

桐敷　真次郎
帝国ホテル回想　一八三・一八四

金田一　春彦
石川啄木と私　一一七

久我　俊一
土川元夫賞を受賞して　八二

草野　心平
明治村百感　一〇〇
谷口吉郎追悼　一〇五

楠家　重敏
ベルツのジャパノロジー研究史　二〇五
サトウとハーン　二〇九
日本アジア協会のこと（1）　二四〇
日本アジア協会のこと（2）　二四一
日本アジア協会のこと（3）　二五〇
日本アジア協会のこと（4）　二五一
日本アジア協会のこと（5）　二五三
日本アジア協会のこと（6）　二五四
日本アジア協会のこと（7）　二六〇

工谷　庄一
笠戸丸考（四）　—笠戸丸の最期—　六一

国田　路雨
明治村に寄贈された西園寺公のフランス書　一二

久保　忠夫
堀口大学と父九萬一（上）　—『長城詩抄』読後—　六五
堀口大学と父九萬一（下）　—『長城詩抄』読後—　六六

久保　美智子
西ドイツ、コマーン市の野外博物館　四三

久保田　安雄
娘の嫁入り　—「ブラジル日本移民記念館」となるわが家のこと—　五七

倉島　幸雄
清水東谷の実像 1　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二六四
清水東谷の実像 2　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二六五
清水東谷の実像 3　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二六六
清水東谷の実像 4　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二六七
清水東谷の実像 5　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二六八
清水東谷の実像 6　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二六九
清水東谷の実像 7　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七〇
清水東谷の実像 8　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七一
清水東谷の実像 9　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七二
清水東谷の実像 10　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七三
清水東谷の実像 11　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七四
清水東谷の実像 12　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七五
清水東谷の実像 13　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七七
清水東谷の実像 14　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七八
清水東谷の実像 15　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二七九
清水東谷の実像 16　シーボルト植物図を描いた絵師東谷をめぐって　二八〇

栗島　すみ子
夏の思い出　九八

黒川　威
帝国ホテルの思い出話　七九

黒沢　良彦
コオロギ　八七

桑原　幹根
明治は近くにある　四五

明治村百感　明治村と私　一〇〇
谷口吉郎さんのこと　一〇五

ケーリ、オーテス
新島襄とアメリカ　三六

剣持　武彦
明治と外国文学 2　明治文学とイタリア　一一
二松学舎と明治学院
—兄広助と弟藤村の世界を分ったもの—　一六〇
「まなざし」の文学・森鷗外　一七五
西郷隆盛とガリバルディ　二五四

小池　滋
東海道線百年　二二六

幸田　成友
太田教授と吉利支丹研究　三三

コータッチ、サー・ヒュー
歴史的建築物の保存継承　一三七

越野　武
西洋建築点描 8　北海道大学第二農場の建築　一二七

小島　清三
明治村百感　明治村と犬山市　一〇〇

五所　平之助
映画「明治はる・あき」　四五

小玉　晃一
若松賤子のこと　一九
蘆花雑感　二八
ハーンの来日関係資料　四八
小説に描かれた明治の女性 1
—有島武郎『或る女』—　五三
小説に描かれた明治の女性 2
—円地文子『女坂』—　七〇
植村正久の英文学的側面　五四
明治文学とかながわ　二一九

小玉　敏子
明治の横浜　—宣教師の活動を中心に—　二二

樹神　弘
岩村町と下田歌子女史
—幕末激動期の岩村藩—　一七八

後藤　文利
呉服座　—その歴史的環境—　六七

小林　哥津
清親の散歩　一

小林　忠雄
明治初期のキリスト教
—岡山県高梁教会堂をめぐって—　二二四
明治初期一女性のキリスト教信仰について〔上〕
（岡山県高梁教会の一信者の死）　二四〇
明治初期一女性のキリスト教信仰について〔下〕
（岡山県高梁教会の一信者の死）　二四六

小林　信行
明治の師弟　嘉納治五郎と平田禿木　一七九

小林　功芳
わが生い立ちの地横浜の明治と戦後を想う　三〇〇

小林　義雄
明治期の顕微鏡について　一二四

小堀　杏奴
明治村印象　夢の明治村　一
明治から大正へ　一一
一信者として　三五
不明　四五
出会と別離　五七
鷗外の「澀江抽斎」から　六〇
明治村百感・続　一〇二
水の如し　一〇五
押葉　一一五
明治村春秋　一八三・一八四
真実を貫いたかた　二三三
明治村二代　二五八

小堀　四郎
剣友　四五

小森　孝之
明治の絵葉書　ポストカードの歴史　一四四

是澤　恭三
工部大学の跡　九二

今　日出海
限りなく惜しい人　一〇五

昆　豊
石川啄木年譜〈編〉　一一七

近藤　豊
聖ヨハネ教会　―解体と復原など（上）―　二九
聖ヨハネ教会　―解体と復原など（下）―　三〇

西郷　従吾
「西郷従道邸」のわが想い出　九三

斎藤　一寛
明治村再訪記　一八

斎藤　襄治
ミスティック港　―捕鯨時代の昔を偲んで―　四
ナンタケットの思い出〈上〉　六
ナンタケットの思い出〈下〉　七
ポール・ブルム「人力車」〈訳〉　一三
セント・ゴーデンズ博物館　三七
シェルバーン博物館　三八
シェーカー・ヴィレジ　―ニューハンプシャー州カンタベリー―　三九
チャールストン　四六
カウボーイ博物館　六四
近代化の諸問題　―ジョージ・ティックナーと森鷗外―（1）　一四七
近代化の諸問題　―ジョージ・ティックナーと森鷗外―（2）　一四九
近代化の諸問題　―ジョージ・ティックナーと森鷗外―（3）　一五〇

斎藤　進六
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

酒井　修一
明治時代のカメラ　一四一

堺　誠一郎
作家と建築家　一〇六

桜田　久
明治初期留学生　わが父と母　一三四
母を想う　―召天五十年を迎えて―　二五四
父　桜田助作の思い出　―五十回忌を迎えるに当って―　二六八

佐々木　烈
明治交通史の最後を飾ったタクシーの出現（上）　二三四

明治交通史の最後を飾ったタクシーの出現（中）　二三五
明治交通史の最後を飾ったタクシーの出現（下）　二三六
第五回内国勧業博覧会と自動車（上）　二三八
第五回内国勧業博覧会と自動車（下）　二三九
本邦最初の自動車販売店　モーター商会について（1）　二四二
本邦最初の自動車販売店　モーター商会について（2）　二四三
本邦最初の自動車販売店　モーター商会について（3）　二四五
本邦最初の自動車販売店　モーター商会について（4）　二四六
本邦最初の自動車販売店　モーター商会について（5）　二四七
本邦最初の自動車販売店　モーター商会について（6）　二四九

佐々木　重雄
続　明治村百感　一〇一

佐藤　馨一
近代都市の成立と発展（一）　—札幌の創建—　二二七
近代都市の成立と発展（二）　—札幌農学校と遠友夜学校—　二二八
近代都市の成立と発展（三）　—都市と交通—　二三〇

佐藤　孝己
「万国史」のことなど　一五
明治初年の英学　三四
ハーンの日本定住　四八
明治初期の私塾・学校　—渋江保の回想—　六八
漱石の師ジェイムズ・メイン・ディクスン（上）　七六
漱石の師ジェイムズ・メイン・ディクスン（下）　七七

佐藤　文樹
帝国大学古典講習科国書課（Ⅰ）　一八〇
帝国大学古典講習科国書課（Ⅱ）　一九二
帝国大学古典講習科国書課と父（Ⅲ）　一九七
帝国大学古典講習科国書課と父（Ⅳ）　一九八

佐藤　良雄
外山正一博士とその遺族　一五
明治の露西亜語学校　七三
明治の水泳と海水浴　一二一
夏目漱石と馬　一四五
明治はいよいよ遠く　一五八
洋学者最後の人　高橋邦太郎素描　一六五
野田宇太郎さんを想う　一七〇
明治奠都五十年駅伝競争始末記　一七七
鎮魂　野田宇太郎　二一〇
久米桂一郎と黒田清輝　二六三
明治五年太陽暦の初正月　二八二
明治村と明治村通信　三〇〇

佐藤　林平
トマス・グラバーと倉場富三郎　一八〇
三春でみたブリタニカ　二二七
木堂　犬養毅の生家　二三六

里見　弹
思案ひとつ　二八
空家の霊気　九三
明治村百感　一〇〇

沢　豊彦
佐々木高美について（1）　—花袋の東京英語学校在学説—　二五七
佐々木高美について（2）　—花袋の東京英語学校在学説—　二五九
佐々木高美について（3）　—花袋の東京英語学校在学説—　二六一

佐々木高美について（4）
—花袋の東京英語学校在学説—　二六二

佐々木高美について（5）
—花袋の東京英語学校在学説—　二六三

澤　まもる

西郷従道邸とレスカス　一五六
カール・ルイスと絵葉書（上）　二〇七
カール・ルイスと絵葉書（下）　二〇八
明治期の絵葉書　二二五

沢田　由治

明治村茶会座談会「谷川徹三師を偲ぶ」　二五二
明治村茶会座談会「新・平家物語に因む茶会」　二七六
明治村茶会座談会「竹田弘庵を偲ぶ茶会」　二八八

澤村　三木男

続　明治村百感　日本の名所　一〇一

塩谷　贊

私が持っている露伴先生の筆蹟など　二四

塩月　弥栄子

谷口吉郎先生の思い出
—おだやかなおひと柄—　一〇五

品川　力

明治の書名・人名　二〇
文献雑話　七三
書物雑談　一四八

篠田　左多江

日系アメリカ文学とシアトル　一七二

篠原　正瑛

明治の蒸気機関車　一四

渋沢　秀雄

最後の波瀾　七
夢声さんを偲んで　—夢声老と明治村と私—　一七
牛鍋雑談　二八
汽車通学　二九
桃李ものいわず　四五
「猫」の解剖 1　六一
「猫」の解剖 2　六二
「猫」の解剖 3　六三
「猫」の解剖 4　六四
「猫」の解剖 5　六五
「猫」の解剖 6　六六
「猫」の解剖 7　六七
「猫」の解剖 8　六八
「猫」の解剖 9　六九
「猫」の解剖 10　七〇
「猫」の解剖 11　七一
「猫」の解剖 12　七二
「猫」の解剖 13　七三
「猫」の解剖 14　七四
開村十一周年ご挨拶　六九
十二周年を迎えて　七一
兜町の家　七二
明治の唱歌（一）　七三
明治の唱歌（二）　七四
明治の唱歌（三）　七〇
明治の唱歌（四）　八九
明治の唱歌（五）　八八
明治の唱歌（六）　八六
明治の唱歌（七）　八一
明治の唱歌（八）　九二
明治の唱歌（九）　九〇
明治の唱歌（一〇）　九三
明治の唱歌（一一）　九四
明治の唱歌（一二）　九五
明治の唱歌（一三）　九六
明治の唱歌（一四）　九七
明治の唱歌（一五）　九八

明治の唱歌（一六）　一〇七
明治の唱歌（一七）　一〇九
明治の唱歌（一八）　一一〇
明治村百感　一〇〇
開村者の霊に捧ぐ　一〇五
十五周年を祝う　一一七

島崎　楠雄
谷口さんの追憶　一〇五

島田　謹二
明治村雑感　八六

清水　勲
漫画に見る明治の街角〔第一回〕
昇斎一景・明治初年の街角　一九五
漫画に見る明治の街角〔第二回〕
明治二年～四年の街角　一九六
漫画に見る明治の街角〔第三回〕
河鍋暁斎・明治初年の街角　一九七
漫画に見る明治の街角〔第四回〕
C・ワーグマン（明治初年・10年代）　一九八
漫画に見る明治の街角〔第五回〕
本多錦吉郎・明治10年代の街角　一九九
漫画に見る明治の街角〔第六回〕、
小林清親（明治10年代）　二〇〇
漫画に見る明治の街角〔第七回〕
小林清親（明治20年代）　二〇一
漫画に見る明治の街角〔第八回〕
長原孝太郎　二〇二
漫画に見る明治の街角〔第九回〕
ジョルジュ・ビゴー　二〇三
漫画に見る明治の街角〔第十回〕
田口米作〔明治20年代〕　二〇四
漫画に見る明治の街角〔第十一回〕
田口米作〔明治30年代〕　二〇五
漫画に見る明治の街角〔第十二回〕
『都の華』〔明治30年代〕　二〇六
漫画に見る明治の街角〔第十三回〕
『滑稽新聞』〔明治30年代後半〕　二〇七
漫画に見る明治の街角〔第十四回〕
『東京パック』〔明治38～45年〕　二〇八
漫画に見る明治の街角〔第十五回〕
『大阪パック』〔明治40年代〕　二〇九

志水　賢太郎
明治村の風物詩　明治村特別歌会あれこれ　一三三

清水　久彌
田村剛先生を偲んで
明治村日本庭園築造のころ　一一二

城　夏子
一閑張りの朱い手筐から　八九

新保　千代子
ふるさとに生きる　一〇六

末廣　恭雄
明治の昔　一〇四
祖父鉄腸と筆立て　五
ナマズに地震をきく　一三六

杉浦　澄子
明治村茶会座談会「谷川徹三師を偲ぶ」　二五二

杉戸　清
明治村百感　感謝　一〇〇

杉村　武
明治村百感　一〇〇
悼　田内静三　一〇〇
誄　谷口吉郎　一〇五
マロニエの並木道　一〇八
啄木歿年の手紙　一一七

杉本　健吉
明治村百感　一〇〇
竹田弘太郎さん　二五八
明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈上〉　二六四
明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈下〉　二六五
明治村茶会座談会
「新・平家物語に因む茶会」　二七六

杉本　苑子
明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈上〉　二六四
明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈下〉　二六五

杉森　久英
思い出のところどころ　一一六

杉山　二郎
モースと蜷川式胤と
野田宇太郎氏の思い出　一一三　一七〇

杉山　里つ
日赤中央病院と関東大震災の思い出　七八

助川　徳是
成瀬文庫案内稿（1）―雑誌について―　七八

鈴木　八郎
明治時代の乾板とフィルム　一四一

鈴木　彦四郎
川上澄生さんの思い出　五一
金子喜一の英詩 SHOZO TANAKA
―"Chicago Socialist Daily"から　一九二
田山花袋漢学の師　吉田陋軒　二〇〇
日光真光教会とJ・M・ガーディナー夫妻
―三代にわたる絆　二〇六

鈴木　保昭
漱石とホイットマンにおける「花のイメージ」　二二
ラフカディオ・ハーンのホイットマン論　四八
ラトガースで開かれた「日本開国史展」　一三八

鈴木　幸夫
明治のアメリカ文学史　七七

鷲見　房子
明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈上〉　二六四
明治村茶会座談会
「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈下〉　二六五

住谷　悦治
新島襄先生を想う　三六

関　忠夫
鯉の吹流し　八三

関　龍夫
「初恋」を歌ったころ　一〇五

關　千代
原三溪について　一六七

関　泰昭
廻る人力車（其一）　二一七

関川　左木夫
東洋回帰の画家たち　―忘れられる明治の漫画―　二九
ビアズレイの系譜　その文献　1　六〇
ビアズレイの系譜　その文献　2　六五

ビアズレイの系譜 3 六八
ビアズレイの系譜（上）―画法の変化と浮世絵― 七九
ビアズレイの系譜（下）―画法の変化と浮世絵― 八〇
夢二の手紙と幸徳秋水 一八〇

関根 謙司
近代日本にとってのアラブ
―本多利明・福沢諭吉・東海散士― 五五

関根 秀三郎
新大橋の一部明治村に保存 五九

関野 克
随想 一
工部省品川硝子製造所 明治村の建物 四 四
土川元夫氏への追慕 四五
博物館明治村館長に就任して 一〇九
明治二十七年酒田地震 関野貞の日記から 一一一
昭和五十五年年頭のことば 一一五
明治村十五周年を迎えて 一一七
座談会「明治村の十五年」 一一七
北里研究所本館の移築保存の経緯 一二四
岡田譲専務理事のご逝去を悼みて 一三三
高田小熊写真館の移築竣工と「明治の写真術と写真館展」の開催 一四一

野田宇太郎先生と明治村
―先生のご逝去を悼みて― 一七〇
明治村二十周年に寄せて 一八三・一八四
『明治建築をつくった人々 その二』
春季特別展について 一八九
故谷川徹三理事長をおくる 二三三
明治村開村二十五年に寄せて 二四四
明治宮殿杉戸絵 ―新時代を飾った伝統文化― 二五五
竹田弘太郎理事長の逝去を悼む 二五八

関本 栄一
明治の「一海軍生徒志望者の備忘録」より（上） 六一
明治の「一海軍生徒志望者の備忘録」より（下） 六二

千 宗屋
ザビエル天主堂に茶を捧げて 一二〇

千家 哲麿
追憶 一一四

川柳夢遊会
〝明治村〟吟行 六五

宋 伯胤
日本露天博物館明治村漫歩 一五八

惣郷 正明
佐久間象山をめぐる「西洋学」 三九
象山の「西洋学」から津田梅子へ 四〇
明治の燈明台 パーリー万国史（上） 四二
明治の燈明台 パーリー万国史（下） 四三
和英語林集成（ヘボン）と英和対訳袖珍辞書（堀達之助） 四六
野球戯の渡来 六三
英語会話書に見る明治のひびき（上） 一四〇
英語会話書に見る明治のひびき（下） 一四二
訳語の変遷 ① オランダ語から英仏語へ 一六九
訳語の変遷 ② 擬態語・提督・百科全書 一七三
明治初年までの書生寮 一八二
明治の操行点 一八五
最初の文部省の小学読本 一八八
『椿姫』初訳からの一世紀 一九三

添川 正夫
秦佐八郎先生 一二四

添田 知道
歌と音でつづる明治 七

私の明治　ラッパ節で　一〇三
私の明治　本郷金助町　一〇七

曽根　保
明治時代の医者修業　三八

曽宮　一念
明治東京風景　八九
三教授の若がき　一一一

大悟法　利雄
明治の唱歌　三
一冊のアルバムから　―小笠原島の白秋―　一三三

田内　静三
旧国道四十一号線　―土川理事長を悼む―　四五
明治村百感　一〇〇

高尾　亮一
皇宮警察署庁舎　八一

高木　大幹
ハーンと日本の心　―盆踊のことなど―　四八

高田　好胤
不東の草鞋　―「大唐西域記」と玄奘三蔵―　二四一

高田　博厚
明治村百感　一〇〇
谷口吉郎さん　一〇五

高梨　健吉
明治の外国婦人　八
明治の東京案内　―チェンバレン『日本案内記より』―　三三
チェンバレンとハーン　四八
明治の碁　五五
むかしのテニス　七一
日本の宿屋　一五四

高橋　邦太郎
品川燈台　二
西園寺公望と「蜻蛉集」　一二
レクラム料理　一一九
明治・東京下町の洋食　一二〇
パリの友情　―西園寺と光妙寺―　一二一
ガラスと南画　一二二
フランス医学事始め（一）　一二三
フランス医学事始め（二）　一二五

日本国勲章事始め　一二六
虹の桟を掛けた人　―画商・林忠正（上）　一二七
虹の桟を掛けた人　―画商・林忠正（下）　一二八
花のパリへSADA・YACCO　―川上音二郎奮闘記〈上〉―　一二九
花のパリへSADA・YACCO　―川上音二郎奮闘記〈下〉―　一三〇
パリの日本美術学生（上）　明治・大正・昭和三代　一三一
パリの日本美術学生（下）　明治・大正・昭和三代　一三二
諷刺画家ジョルジュ・ビゴー　―痛烈な文明批評家―　一三三
二つの墓標　パリと東京　一三四
江戸町人・瑞穂屋卯三郎　一三五
親日家・羅尼　日本語新聞「世のうはさ」　一三六
紅毛二人三脚　一三七
フランス音楽事始め　一三八
日本・活動写真事始め　一三九
明治・ワイン事始め　一四〇
明治の女性　黒田清輝＝ピエル・ロチ　一四一
光の使徒　アンリ・プレグラン　―横浜、東京にガス燈を―　一四二
富岡製糸場　―官業はいつでも赤字―　一四三
カフェ変遷略史　―折角移し植えられたが―　一四四
京都＝リオン縁の絲　一四五

日本・洋食由来記（上）　一四六
日本・洋食由来記（下）　一四七
仏人の見た日本の寄席　―よくぞここまで―　一四八
横浜・仏語伝習所　一四九
ジャクレー父子　―二代にわたる知日家―　一五〇
碧眼の江戸っ子英利世夫（上）　セルジュ・エリセエーフ　一五一
碧眼の江戸っ子英利世夫（下）　セルジュ・エリセエーフ　一五二
青い目の農民魂　―フランス帰りの草鞋穿き―　一五三
モンブラン伯爵（上）　―打倒幕府の仏貴族　一五四
モンブラン伯爵（下）　一五五
徳川義親侯の功績　英科学者の賞揚　一五六

高橋　健二
チンチン電車礼賛　―明治村日帰り混乱の記―　六六

高橋　裕
土木百年の足跡を辿る（一）　―百年前の土木界―　二一六
土木百年の足跡を辿る（二）　―八十年前の土木界―　二一七
土木百年の足跡を辿る（三）　―六十年前の土木界―　二一八
土木百年の足跡を辿る（四）　―昭和初期二〇年間の土木界―　二一九
土木百年の足跡を辿る（五）　―敗戦後の土木界あれこれ―　二二〇
土木百年の足跡を辿る（六）　―七〇年代以降の土木界―　二二一

鷹見　安二郎
隅田川架橋の変遷　新大橋を主として　五七

高道　基
新島襄の信仰　三六

竹内　外茂
明治村百感　一〇〇
座談会「明治村の十五年」　一一七
明治村の機械　一八三・一八四
竹田理事長を悼んで　二五八

武田　勝蔵
明治の銭湯　一四

竹田　弘太郎
明治村百感　礼宮様のご来村　一〇〇
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五
明治村開村十五周年を迎えて　一一七
北里研究所本館移築に想う　一二四
田山方南先生を偲んで　一二八
野田宇太郎先生を悼む　一七〇
明治村開村二十周年を迎えて　一八三・一八四
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　二二九
谷川徹三先生を悼む　二三三
明治村開村二十五年を迎えて　二四四

竹田　新
明治村茶会座談会「竹田弘庵を偲ぶ茶会」　二八八

竹田　直
明治村百感　一〇〇

竹西　寛子
二つの明治　一〇九

多湖　実夫
「草枕」と明治村　七〇

田島　清
明治の新政と国学者神主　八七

田中　貞夫
明治期の仏学者　―入江文郎―　二〇
明治期の仏学者　―村上英俊（1）―　二一
明治期の仏学者　―村上英俊（2）―　二二

田中　省三
新島先生の旧宅　三六

田中　助一
懐かしき日本赤十字社病院　四九
軍歌「橘中佐」及び長崎市の上水道　五二
大村益次郎の従者篠田武蔵　八三
玉井喜作と絵葉書　一五四

田中　精一
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　二二九

田中　冬二
秋の一日　一〇一

田辺　繁子
新島先生と女子教育　三六

田鍋　幸信
エディンバラの志士たち　七五

谷川　俊太郎
明治村茶会座談会「谷川徹三師を偲ぶ」　二五二

谷川　徹三
大隈重信展・第六回茶会記念号御挨拶　二五
新島襄展・第七回茶会記念号御挨拶　三六
古武士的風格　四五
第八回明治村茶会・小泉八雲展記念号御挨拶　四八
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五
三溪先生讃　一六六
明治村開村二十周年を迎えて　一八三・一八四
昭和天皇を偲ぶ　二二三

谷口　清太郎
続　明治村百感　一〇一

谷口　吉郎
明治村と犬山　明治村縁起（一）　一
発心　明治村縁起（二）　二
徳川夢声さんを悼む　一七
七周年を迎えて　二四
明治村がもしなかったら　―開村十二周年に際して―　八二
明治村百感　一〇〇
田内静三常務理事葬儀における弔辞　一〇〇

田畑　忍
新島襄先生の遺業　三六

田村　剛
土川元夫さんを悼む　四五
明治村百感　一〇〇
明治村日本庭園の記（遺稿）　一一二

田山　方南
明治村茶会の記　一
第六回明治村茶会の期日と担当者　二五
第六回明治村茶会の記　二六
第八回明治村茶会記　四九
第九回明治村茶会記　六一
第十回明治村茶会記　七二
第十一回明治村茶会記　八四
第十二回明治村茶会記　九六
明治村百感　一〇〇
田内静三常務理事葬儀における悼偈　一〇〇
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　悼偈並悼歌　一〇五
明治村行幸啓雑詠　一〇八

第十三回明治村茶会の記　一〇八

柘植　正樹
明治村を訪れて　一

津田　青楓
明治生れの私の幼年時代の風景　九一

土川　丈夫
明治村百感　一〇〇
谷口吉郎先生の御逝去に際して　一〇五
明治村開村二十周年と亡父土川元夫への追憶　一八三・一八四
故竹田理事長を偲ぶ　二五八

槌田　満文
バンザイ三唱はいつからか　一三九
詩心とバイタリティー　一七〇

土屋　博靖
笠戸丸考（一）　五八
笠戸丸考（二）　—大阪商船時代の笠戸丸—　五九
笠戸丸考（三）　—水産母船時代の笠戸丸とその最期—　六〇
笠戸丸考　補遺　六二

金沢監獄正門移築記念「矯正（行刑）資料展」の開催について　八三
附・「北海道行刑資料館」のこと
ブラジル移民七十周年祝賀行事に参列して　九八
ブラジル日本移民史料館について（上）　九九
ブラジル日本移民史料館について（下）　一〇一
続　明治村百感　一〇一
笠戸丸の遺品　一五三
日本赤十字社と結核撲滅運動（一）　一六二
日本赤十字社と結核撲滅運動（二）　一六三
日本赤十字社と結核撲滅運動（三）　一六四
日本赤十字社と結核撲滅運動（四）　一六五
日本赤十字社と結核撲滅運動（五）　一六六
日本赤十字社と結核撲滅運動（六）　一六八
日本赤十字社と結核撲滅運動（七）　一七一
明治村に移築されるシアトルの家に関係した日系の人々　一七一
フランク・ロイド・ライト氏と犬丸徹三氏（上）　一八三・一八四
フランク・ロイド・ライト氏と犬丸徹三氏（下）　一八五

出来　成訓
シアトルの日本語　一七二

手塚　竜麿
犬山の思い出　七
明治の代用小学校　二三
ジェームズと明治丸　二六
新島襄・その生誕地と終焉地　三六
私の卒業論文とハーン　四八
商法講習所の成立と勝海舟　五六
幼稚園百年と松野クララ　七六
明治の讃美歌　—伊予法華津峠に「山路越えて」の碑をたずねる—　九六
霧積にある聖書の碑　一三二
明治はじめ東京のクリスマスと原胤昭　一五〇
東京の外人墓地　一五六
東京の外人墓地（続き）　一六二
赤十字平和記念日に思う　一六七

寺田　熊雄
明治村を見て　一〇三

戸板　康二
明治村百感　一〇〇

同志社社史史料編集所
同志社の明治建築　三六

遠丸　立
「明治」と私　二三九

戸川　エマ
九月の東京　九九

徳川　夢声
漱石邸　四
村長白書　一七

徳川　宗敬
明治末期の私　九一
明治村百感　一〇〇

徳川　義親
明治の意義　一

徳田　一穂
時の流れ　四
古里の雪　一〇五
「十月の日記」―もう秋です―　一一二
春の頁　―人と建物―　一一五

外村　吉之助
聖ヨハネ教会危ふかりき　一八

富田　仁
明治と外国文学 3
明治期におけるフランス文学（一）
―明治31年まで―　一二
横浜の仏語伝習所　一八
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」
―近代日本比較文学史への試み Ⅰ―　二三
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」
―近代日本比較文学史への試み Ⅱ―　二七
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」
―近代日本比較文学史への試み Ⅲ―　二八
明治と外国文学　坪内逍遙と「比照文学」
―近代日本比較文学史への試み Ⅳ―　三〇
明治の文学　徳田秋声とフランス文学　三五
黎明期のフランス語字書（上）
―村上英俊の字書編纂―　四二
黎明期のフランス語字書（下）
―村上英俊の字書編纂―　四三
「仏領西インド諸島のメモ帳」　四八
『仏学始祖村上英俊』の著者・瀧田貞治　四九
モンパルナスの灯の影に
―モンパルナス墓地に眠る明治の人びと―　五二
尾崎紅葉と外国文学　五三
中江兆民の仏蘭西学　六〇
入江文郎と仏蘭西学　―碑文と送別文―　六六
中江兆民の帰国の時期について　七〇
明治長崎異人哀話（上）―ビニヤテール・その愛　七八
明治長崎異人哀話（下）―ビニヤテール・その愛　七九
ジョルジュ・ブスケのこと　八六
『仏文雑誌』のこと　一三四
松江を訪れた二人のフランス人
―アレクサンドルとヴァレット―　一五七
鹿鳴館について　一七四
海を越えた日本人たちの軌跡 1　一八六
海を越えた日本人たちの軌跡 2
フランスへの旅人たち―文久元年遣欧使節―　一八七
海を越えた日本人たちの軌跡 3
フランスへの旅人たち―文久三年遣仏使節―　一八八
〈海を越えた日本人たちの系譜 4〉
慶応三年パリ万国博覧会と瑞穂屋卯三郎　一八九
〈海を越えた日本人たちの系譜 4-2〉
明治初期の官費留学　一九一
〈海を越えた日本人たちの系譜 5〉
パリ万博で鉛筆に魅せられた真崎仁六　一九三
〈海を越えた日本人たちの系譜 6〉
マッチに憑かれた清水誠　一九四
〈海を越えた日本人たちの系譜 7〉
『蜻蛉集』をめぐる人びと　一九五

〈海を越えた日本人たちの系譜 8〉
明治初年のフランス留学生総代入江文郎 一九六
〈海を越えた日本人たちの系譜 9〉
西陣織工のリヨン研修 一九七
〈海を越えた日本人たちの系譜 10〉
栗塚省吾
―フランス民法を学び司法行政に携わる 一九八
〈海を越えた日本人たちの系譜 11〉
高野正誠と土屋助次郎
―ワイン醸造に青春をかけた勝沼の二青年 一九九
〈海を越えた日本人たちの系譜 12〉
カーキ色創始者・稲畑勝太郎 二〇〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 13〉
教育者・中川元 二〇一
〈海を越えた日本人たちの系譜 14〉
フランス法の実務者・加太邦憲 二〇二
〈海を越えた日本人たちの系譜 15〉
華族の留学 ―久松定謨の場合 二〇四
〈海を越えた日本人たちの系譜 16〉
矢野龍溪 ―西欧体験で日本の危機感を覚醒したジャーナリスト・文学者 二〇五
〈海を越えた日本人たちの系譜 17〉
岩倉使節団の見たパリ 二〇八
〈海を越えた日本人たちの系譜 18〉
明治初年フランス留学生の群像 二〇九
〈海を越えた日本人たちの系譜 19〉
大阪兵学寮とフランス留学生 二一〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 20〉
山田顕義のフランス体験 二一一
〈海を越えた日本人たちの系譜 21〉
岩倉使節団のパリの軌跡（1） 二一二
〈海を越えた日本人たちの系譜 22〉
岩倉使節団のパリの軌跡（2） 二一三
〈海を越えた日本人たちの系譜 23〉
岩倉使節団のパリの軌跡（3） 二一四
〈海を越えた日本人たちの系譜 24〉
明治初年のフランス留学生たち
―今村和郎・坂田乾一・飯塚納など― 二一五
〈海を越えた日本人たちの系譜 25〉
フランス文学最初の翻訳者 川島忠之助 二一六
〈海を越えた日本人たちの系譜 26〉
鹿鳴館のヒロイン 井上武子 二一七
〈海を越えた日本人たちの系譜 27〉
成島柳北 ―シャノワーヌとの邂逅― 二一八
〈海を越えた日本人たちの系譜 28〉
成島柳北のパリ体験 二一九
〈海を越えた日本人たちの系譜 29〉
金沢のフランス留学生たち 二二〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 30〉
ナンシー派の画家 高島北海 二二一
〈海を越えた日本人たちの系譜 31〉
中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅰ） 二二二
〈海を越えた日本人たちの系譜 32〉
中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅱ） 二二三
〈海を越えた日本人たちの系譜 33〉
中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅲ） 二二四
〈海を越えた日本人たちの系譜 34〉
中江兆民―ジャン・ジャック・ルソーの思想の移植者―（Ⅳ） 二二五
〈海を越えた日本人たちの系譜 35〉
栗本鋤雲のフランス体験（Ⅰ） 二二六
〈海を越えた日本人たちの系譜 36〉
栗本鋤雲のフランス体験（Ⅱ） 二二七
〈海を越えた日本人たちの系譜 37〉
栗本鋤雲のフランス体験（Ⅲ） 二二八
〈海を越えた日本人たちの系譜 38〉
栗本鋤雲のフランス体験（Ⅳ） 二二九
〈海を越えた日本人たちの系譜 39〉
山田顕義と木戸孝允
―オテル・ド・ジブラルタルの所在？― 二三〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 40〉
久米邦武のフランス体験（そのⅠ） 二三一
〈海を越えた日本人たちの系譜 41〉
久米邦武のフランス体験（そのⅡ） 二三二

〈海を越えた日本人たちの系譜 42〉
久米邦武のフランス体験（その　）　二三四
〈海を越えた日本人たちの系譜 43〉
岩倉使節団の人びと（その一）　二三五
〈海を越えた日本人たちの系譜 44〉
岩倉使節団の人びと（その二）　二三六
〈海を越えた日本人たちの系譜 45〉
岩倉使節団の人びと（その三）　二三七
〈海を越えた日本人たちの系譜 46〉
岩倉使節団の人びと（その四）　二三八
〈海を越えた日本人たちの系譜 47〉
岩倉使節団の人びと（その五）　二三九
〈海を越えた日本人たちの系譜 48〉
岩倉使節団の人びと（その六）　二四〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 49〉
岩倉使節団の人びと（その七）　二四一
〈海を越えた日本人たちの系譜 50〉
岩倉使節団の人びと（その八）　二四二
〈海を越えた日本人たちの系譜 51〉
岩倉使節団の人びと（その九）　二四三
〈海を越えた日本人たちの系譜 52〉
岩倉使節団の人びと（その十）　二四五
〈海を越えた日本人たちの系譜 53〉
岩倉使節団の人びと（その十一）　二四六
〈海を越えた日本人たちの系譜 54〉
岩倉使節団の人びと（その十二）　二四七
〈海を越えた日本人たちの系譜 55〉
岩倉使節団の人びと（その十三）　二四八
〈海を越えた日本人たちの系譜 56〉
岩倉使節団の人びと（その十四）　二四九
〈海を越えた日本人たちの系譜 57〉
岩倉使節団の人びと（その十五）　二五〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 58〉
岩倉使節団の人びと（その十六）　二五一
〈海を越えた日本人たちの系譜 59〉
岩倉使節団の人びと（その十七）　二五二
〈海を越えた日本人たちの系譜 60〉
岩倉使節団の人びと（その十八）　二五三
〈海を越えた日本人たちの系譜 61〉
岩倉使節団の人びと（その十九）　二五四
〈海を越えた日本人たちの系譜 62〉
岩倉使節団の人びと（その二十）　二五五
〈海を越えた日本人たちの系譜 63〉
岩倉使節団の人びと（その二十一）　二五六
〈海を越えた日本人たちの系譜 64〉
岩倉使節団の人びと（その二十二）　二五七
〈海を越えた日本人たちの系譜 65〉
岩倉使節団の人びと（その二十三）　二五八
〈海を越えた日本人たちの系譜 66〉
岩倉使節団の人びと（その二十四）　二五九
〈海を越えた日本人たちの系譜 67〉
岩倉使節団の人びと（その二十五）　二六〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 68〉
岩倉使節団の人びと（その二十六）　二六一
〈海を越えた日本人たちの系譜 69〉
岩倉使節団の人びと（その二十七）　二六二
〈海を越えた日本人たちの系譜 70〉
岩倉使節団の人びと（その二十八）　二六三
〈海を越えた日本人たちの系譜 71〉
岩倉使節団の人びと（その二十九）　二六四
〈海を越えた日本人たちの系譜 72〉
岩倉使節団の人びと（その三十）　二六五
〈海を越えた日本人たちの系譜 73〉
岩倉使節団の人びと（その三十一）　二六六
〈海を越えた日本人たちの系譜 74〉
岩倉使節団の人びと（その三十二）　二六七
〈海を越えた日本人たちの系譜 75〉
岩倉使節団の人びと（その三十三）　二六八
〈海を越えた日本人たちの系譜 76〉
岩倉使節団の人びと（その三十四）　二六九
〈海を越えた日本人たちの系譜 77〉
岩倉使節団の人びと（その三十五）　二七〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 78〉
岩倉使節団の人びと（その三十六）　二七一
〈海を越えた日本人たちの系譜 79〉
岩倉使節団の人びと（その三十七）　二七二
〈海を越えた日本人たちの系譜 80〉
岩倉使節団の人びと（その三十八）　二七三

〈海を越えた日本人たちの系譜 81〉
岩倉使節団の人びと（その三十九） 二七四
〈海を越えた日本人たちの系譜 82〉
岩倉使節団の人びと（その四十） 二七五
〈海を越えた日本人たちの系譜 83〉
岩倉使節団の人びと（その四十一） 二七七
〈海を越えた日本人たちの系譜 84〉
岩倉使節団の人びと（その四十二） 二七八
〈海を越えた日本人たちの系譜 85〉
岩倉使節団の人びと（その四十三） 二七九
〈海を越えた日本人たちの系譜 86〉
岩倉使節団の人びと（その四十四） 二八〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 87〉
岩倉使節団の人びと（その四十五） 二八一
〈海を越えた日本人たちの系譜 88〉
岩倉使節団の人びと（その四十六） 二八二
〈海を越えた日本人たちの系譜 89〉
岩倉使節団の人びと（その四十八） 二八三
〈海を越えた日本人たちの系譜 90〉
岩倉使節団の人びと（その四十九） 二八四
〈海を越えた日本人たちの系譜 91〉
岩倉使節団の人びと（その五十） 二八五
〈海を越えた日本人たちの系譜 92〉
岩倉使節団の人びと（その五一） 二八六
〈海を越えた日本人たちの系譜 93〉
岩倉使節団の人びと（その五二） 二八七
〈海を越えた日本人たちの系譜 94〉
岩倉使節団の人びと（その五三） 二八九
〈海を越えた日本人たちの系譜 95〉
岩倉使節団の人びと（その五四） 二九〇
〈海を越えた日本人たちの系譜 96〉
岩倉使節団の人びと（その五五） 二九一
〈海を越えた日本人たちの系譜 97〉
岩倉使節団の人びと（その五六） 二九二
〈海を越えた日本人たちの系譜 98〉
岩倉使節団の人びと（その五七） 二九三
〈海を越えた日本人たちの系譜 99〉
岩倉使節団の人びと（その五八） 二九四
〈海を越えた日本人たちの系譜 100〉
岩倉使節団の人びと（その五九） 二九五
〈海を越えた日本人たちの系譜 101〉
岩倉使節団の人びと（その六十） 二九六
〈海を越えた日本人たちの系譜 102〉
岩倉使節団の人びと（その六一） 二九七
〈海を越えた日本人たちの系譜 103〉
岩倉使節団の人びと（その六二） 二九八
〈海を越えた日本人たちの系譜 104〉
岩倉使節団の人びと（その六三） 二九九
〈海を越えた日本人たちの系譜 105〉
岩倉使節団の人びと（その六四） 三〇〇

内藤　昌
東松家住宅　明治村の建物　五　五

長尾　芳郎
土川君　四五
明治村十四年　一〇五

長岡　祥三
明治八年のスイス紀行（1）
長岡護美（英国留学生）大陸旅行記（A Tour on the Continent）から　二三六
明治八年のスイス紀行（2）
長岡護美（英国留学生）大陸旅行記（A Tour on the Continent）から　二三七
明治八年のスイス紀行（3）
長岡護美（英国留学生）大陸旅行記（A Tour on the Continen）から　二三八
東京演劇音楽協会
―明治時代の外国人によるアマチュア演劇　二四八
明治の日本を描いた二人の女流作家
―ダヌタン男爵夫人とフレイザー夫人―　二七七
三宮夫人の扇　二九九

中川　善之助
土川君と私　四五

中河　幹子
歌・明治村　谷口吉郎氏と土川元夫氏に捧ぐ　一六

中河　与一
明治村出入　一〇二
文学碑前後　一〇六

長木　大三
北里研究所本館の明治村移転について　一二四

永倉　三郎
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　二二九

長崎　勧
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五

中沢　源一郎
谷口館長を悼みて　一〇五

中島　和夫
「近代文学」派と明治村　五六

中島　英夫
端役登場　―資料収集に加わって―　八二

長門谷　洋治
新島襄と医学教育　三六

中野　記偉
ブラジルを思う　五五
フランク・ロイド・ライトの墓参り　二一四
パークス・正成・漱石　一（桜井の駅の巻　一）　二八六
パークス・正成・漱石　二（桜井の駅の巻　二）　二八七
パークス・正成・漱石　三（桜井の駅の巻　三）　二八九
パークス・正成・漱石　四（新学制の小学校　巻の一）　二九〇
パークス・正成・漱石　五（新学制の小学校　巻の二）　二九一
パークス・正成・漱石　六（新学制の小学校　巻の三）　二九二
パークス・正成・漱石　七（新学制の小学校　巻の四）　二九三
パークス・正成・漱石　八（新学制の小学校　巻の五）　二九四
パークス・正成・漱石　九（新学制の小学校　巻の六）　二九五
パークス・正成・漱石　十（桜井の駅址再訪　巻の一）　二九六
パークス・正成・漱石　十一（桜井の駅址再訪　巻の二）　二九七
パークス・正成・漱石　十二（桜井の駅址再訪　巻の三）　二九八
パークス・正成・漱石　十三（倫敦塔の内と外　巻の一）　二九九
パークス・正成・漱石　十四（倫敦塔の内と外　巻の二・三・四）　三〇〇

中浜　寿治
新移築建造物紹介
川崎銀行本店、皇居正門前石橋飾電燈　二四四
ジョン万次郎の生涯　1　―日米交流の原点―　二八四
ジョン万次郎の生涯　2　―日米交流の原点―　二八七
ジョン万次郎の生涯　3　―日米交流の原点―　二八九
ジョン万次郎の生涯　4　―日米交流の原点―　二九二
ジョン万次郎の生涯　5　―日米交流の原点―　二九四
ジョン万次郎の生涯　6　―日米交流の原点―　二九六
ジョン万次郎の生涯　7　―日米交流の原点―　二九七
ジョン万次郎の生涯　8　―日米交流の原点―　三〇〇

中平　解
明治村あれこれ　八

中村　溪男
写真・明治の青春（二）　中村岳陵　八八
落葉図雑想　―菱田春草―　八九

仲谷　義明
続 明治村百感　一〇一

長与　健夫
北里柴三郎先生と祖父及び父　一二四

滑川　明彦
別子銅山と塩野門之介
—フランス鉱山技術導入の一軌跡—　二八〇
五稜郭とフランス　二九〇

成瀬　文子
花水木　九五

成瀬　正勝
露伴と恋愛　二四

西尾　雅敏
シアトル日系福音教会解体の記　一七二
新移築建造物紹介　内閣文庫　二四四
明治村茶会座談会　「加藤唐九郎を偲ぶ茶会」　三〇〇

西堀　昭
明治初年の御雇仏人　—地方、私雇を中心に—　三八
ヴェネチアの緒方惟直を訪ねて　五一
フランスで見つかった明治の日本
ロッシュ仏公使の墓を訪ねる　二一八

丹羽　文雄
谷口さんの思ひ出　一〇五

野尻　抱影
ヘルン先生の思い出　四八

野田　宇太郎
西郷従道邸　明治村の建物 一　一
鷗外・漱石旧宅　明治村の建物 二　二
聖ヨハネ教会堂　明治村の建物 三　三
若い人々のための明治村物語（一）　おとぎのくに　一
若い人々のための明治村物語（二）　友情と建設　二
若い人々のための明治村物語（三）　山湖のささやき　三
若い人々のための明治村物語（四）　湖底の歴史をたずねて　四
若い人々のための明治村物語（五）　道　五
若い人々のための明治村物語（六）　明治村がなかったら　六
若い人々のための明治村物語（七）　明治村の夜　七
若い人々のための明治村物語（八）　ガス灯　八
若い人々のための明治村物語（九）　鷗外と漱石が住んだ家　九
若い人々のための明治村物語（十）　人力車の話　一〇
若い人々のための明治村物語（十一）　汽車ポッポ　一一
若い人々のための明治村物語（十二）　小泉八雲と乙吉の家　一二
若い人々のための明治村物語（十三）　西園寺公望と雨声会　一三
若い人々のための明治村物語（十四）　黒いポストのある郵便局　一四
若い人々のための明治村物語（十五）　ちんちん電車　一五
若い人々のための明治村物語（十六）　西洋館　一六
若い人々のための明治村物語（十七）　教会　一七
若い人々のための明治村物語（十八）　役所と学校　一八
若い人々のための明治村物語（十九）　銀行　一九
若い人々のための明治村物語（二十）　札幌電話交換局　二〇
若い人々のための明治村物語（二十一）　明治村の民家と商家　二一
若い人々のための明治村物語（二十二）　芝居小屋　二二
若い人々のための明治村物語（二十三）　兵舎と病院　二三
若い人々のための明治村物語（二十四）　幸田露伴の家　二四
若い人々のための明治村物語（二十五）　監獄と交番　二五
若い人々のための明治村物語（二十六）　ハワイ移民記念館　二六
若い人々のための明治村物語（二十七）　灯台　二七

若い人々のための明治村物語（二十八）　工場　二八
若い人々のための明治村物語（補遺篇・一）
日本赤十字社病院　四七
若い人々のための明治村物語（補遺篇・二）
清水医院と島崎藤村　四九
詩・露伴の梅　二四
雑誌「明治文化研究」の復刻に想ふ　二九
筑後今村天主堂　三〇
明治村と明治文化研究会　三一
明治の町並木　三二
京都聖ザビエル天主堂と南蛮寺　三三
明治村の文学　三四
明治の翻訳創造語　三五
大和月ケ瀬の新島襄　三六
『明治の石版画』　三七
まぼろしの女紅場　三八
パノラマ館　三九
〈明治村随想〉文明開化を考へる　四〇
〈明治村随想〉明治村と犬の一生　四一
〈明治村随想〉明治村の初心　四二
〈明治村随想〉今の家昔の場所　四三
〈明治村随想〉ピンポン　四四
土川さんを悼む　四五
明治村九年目の春　四六
ハーンとは俺のことかとヘルン聞き　四八
明治の郵便　五〇
なつかしいと感ずる心　五一
蒲原有明故家　五二
KDの歌　—明治の青春—　五四
新大橋と文学　五五
明治村十年　五七
明治村での「四季」の会　五八
森鷗外の「沙羅の木」展覧会　六〇
明治村の夏　六二
汽笛一声明治村寄席　六五
二人の徳川さん　八二
明治村賞を授与されて　八二
鷗外と漱石の初対面　八四
暑中休暇と避暑　八五
写真・明治の青春（一）
一高時代の谷崎潤一郎・和辻哲郎・大貫晶川他　八七
写真・明治の青春（三）　明治十三年の森鷗外　九七
梅の花　九二
明治村五月茶会　九六
そこに初心あり　明治村通信百号に寄せて　一〇〇
谷口吉郎館長葬儀における弔辞　一〇五
明治村十四歳　一〇六
明治村の両陛下　一〇八
「夏のおもひで」　一一〇
木村毅と魂のブランコ　一一三
しだれ梅　一一六
座談会「明治村の十五年」　一一七
石川啄木と喜之床その他　一一七
石川啄木年譜〈監修〉　一一七
随筆十二ヶ月（一）　石川啄木の四月　一一八
随筆十二ヶ月（二）　暮春初夏　一一九
随筆十二ヶ月（三）　長崎のおたきさん花　一二〇
随筆十二ヶ月（四）　森鷗外の七月　一二一
随筆十二ヶ月（五）　露伴先生葬送の日　一二二
随筆十二ヶ月（六）　二百十日　一二三
随筆十二ヶ月（七）
ああ大和にしあらましかば　一二五
随筆十二ヶ月（八）　柳川の白秋祭　一二六
随筆十二ヶ月（九）　下町と甘酒　一二七
随筆十二ヶ月（十）　紅梅酒　一二八
随筆十二ヶ月（十一）　三月十八日の笑ひ　一二九
随筆十二ヶ月（十二）
高村光太郎と四月の思ひ出　一三〇
秋声遺宅と徳田一穂さんのこと　一三三
明治村と戦争　—もう一つの声—　一三五
写真の紅露時代　明治の文士と写真器　一四一
自然と文人　月ヶ瀬墨蹟展の意義　一四三
乃木将軍と狩野芳崖　一四六
汽車と機車　一五〇
夏の花物語　一五八

伊香保の思ひ出　蘆花五十七年忌に寄す　一五九
詩・酉歳の男の歌　一七〇

野田　武夫
大隈総長の思出　二五

野々山　三枝
伊良子清白『孔雀船』の原郷を訪ねて　一八一

野溝　七生子
新島襄先生のおんこと　三六

馬　成三
独特の博物館―明治村　一一五

間　二郎
『思出の記』と『デイヴィド・コパーフィールド』　一五九
明治におけるディケンズ　五〇
―『西洋夫婦事情』のこと―

橋村　壽
読本懐古　二〇九

長谷川　泉
いつまでも明治「村」で　二
『明治村物語』に思う　三九
八雲と妻の座　四八
鷗外「箱入娘の歌」　一三一
伯林の森鷗外記念館　一六八
文学院散歩居士　一七〇

長谷川　公茂
明治村茶会座談会　「谷川徹三師を偲ぶ」　二五二

長谷川　敏雄
三度明治村に遊ぶの記　四七

秦　藤樹
北里研究所の明治村移築について　一二四

初田　亨
西洋建築点描　7　招魂社の高灯籠　一二二

服部　良一
亡き谷口先生を偲んで　一〇五

馬場　俊介
道路と町と土木工学（一）―道の系譜―　二三一
道路と町と土木工学（二）
―明治の名古屋を中心としてその流れをみる　二三二
道路と町と土木工学（三）
―大正・昭和の名古屋　二三三

祝　宮静
明治村百感　一〇〇

浜川　博
小泉八雲とバーナード・リーチ　四八
内田魯庵の友情　六三

速川　和男
ハーンと焼津　―山口乙吉をめぐって―　一三
「怪談」翻訳事始　四八
小泉八雲略年譜〈編〉　四八
ユーモアの狂い咲き　―和田垣謙三のこと―　一七五
小泉八雲来日百年に思う　二四二
英学史研究への招待　―明治村大会に際して―　二七九
明治のやさしさ　―漱石・百閒・由三郎―　三〇〇

原　安三郎
大隈老侯の想い出　二五

原田　種夫
筑前の明治の童歌　一一
明治があった　一四七

春山　行夫
明治初期の万国博関係書　1　三
明治初期の万国博関係書　2　四
明治初期の万国博関係書　3　五
明治初期の万国博関係書　4　六
明治初期の万国博関係書　5　七
明治初期の万国博関係書　6　八
「正義」のシンボル　八一
明治初期の外人植物採集家（1）　九三
明治初期の外人植物採集家（2）　九四
明治初期の外人植物採集家（3）　九五
明治初期の外人植物採集家（4）　九六
明治初期の外人植物採集家（5）　九七
明治の外人植物採集家（6）　九九
明治の外人植物採集家（6の2）　一〇二
明治の外人植物採集家（7）　一〇四
明治の外人植物採集家（8）　一〇六
明治の外人植物採集家（9）　一〇七
明治の外人植物採集家（10）　一〇八
明治村百感　一〇〇
石と旗　谷口吉郎さんの著書　一〇九

木村毅さんの業績　一一三
「芸術」という用語　1　明治の学術用語の成立　1　一一四
「芸術」という用語　2　明治の学術用語の成立　2　一一五
「科学」という用語　明治の学術用語の成立　3　一一六
「語原」と「起原」　明治用語の成立　4　一一八
「起原」と「起源」　明治用語の成立　5　一一九
「化学」という用語　1　明治用語の成立　6　一二〇
「化学」という用語　2　明治用語の成立　7　一二一
「化学」という用語　3　明治用語の成立　8　一二二
「理学」という用語　1　明治用語の成立　9　一二三
「理学」という用語　2　明治用語の成立　9の2　一二五
「物理」という用語　1　明治用語の成立　10　一二六
「物理」という用語　2　明治用語の成立　11　一二七
「哲学」という用語　明治用語の成立　13　一二九
「経済」と「理財」　明治用語の成立　14　一三〇
「社会」という用語　明治用語の成立　15　一三一
「社会」という用語　明治用語の成立　16　一三二
「社会」という用語　明治用語の成立　17　一三三
「社会学」という用語　明治用語の成立　18　一三四
「社会主義」という用語　1　明治用語の成立　19　一三五
「社会主義」という用語　2　明治用語の成立　20　一三六
「主義」という用語　明治用語の成立　21　一三七
「イズム」の訳語　明治用語の成立　22　一三八
「宗教」という用語　1　明治用語の成立　23　一三九
「宗教」という用語　2　明治用語の成立　23　一四〇
「宗教」という用語　3　明治用語の成立　25　一四三
「仏法」と「仏教」　1　明治用語の成立　26　一四四
「仏法」と「仏教」　2　明治用語の成立　27　一四五
「仏法」と「仏教」　3　明治用語の成立　28　一四六
キリスト教の用語　1　明治用語の成立　29　一四七
キリスト教の用語　2　明治用語の成立　30　一四八
キリスト教の用語　3　明治用語の成立　31　一四九
キリスト教の用語　4　明治用語の成立　32　一五〇
キリスト教の用語　5　明治用語の成立　33　一五一
キリスト教の用語　6　明治用語の成立　34　一五二
キリスト教の用語　7　明治用語の成立　35　一五三
キリスト教の用語　8　明治用語の成立　36　一五四
キリスト教の用語　9　明治用語の成立　37　一五五
キリスト教の用語　10　明治用語の成立　38　一五六
キリスト教の用語　11　明治用語の成立　39　一五七
キリスト教の用語　12　明治用語の成立　40　一五八
キリスト教の用語　13　明治用語の成立　41　一五九
キリスト教の用語　14　明治用語の成立　42　一六〇
キリスト教の用語　15　明治用語の成立　43　一六一
キリスト教の用語　16　明治用語の成立　44　一六二
キリスト教の用語　17　明治用語の成立　45　一六三
キリスト教の用語　18　明治用語の成立　46　一六四

キリスト教の用語 19 明治用語の成立 47 一六五
聖書の用語 1 明治用語の成立 48 一六八
聖書の用語 2 明治用語の成立 49 一六九
聖書の用語 3 明治用語の成立 50 一七七
聖書の用語 4 明治用語の成立 51 一七八
聖書の用語 5 明治用語の成立 52 一八〇
聖書の用語 6 明治用語の成立 53 一八一
聖書の用語 7 明治用語の成立 54 一八五
聖書の用語 8 明治用語の成立 55 一八六
聖書の用語 9 明治用語の成立 56 一八七
聖書の用語 10 明治用語の成立 57 一八八

東山 魁夷
雪の日 九〇
明治村百感 一〇〇
谷口吉郎館長葬儀における弔辞 一〇五

久松 潜一
明治村をたずねて 五

土方 定一
端正な造型感覚 一〇六

平井 聖
三つの小さな事 一〇五

帝国ホテルの思い出
付・ライトが持っていた三冊の本 一八三・一八四

平岩 外四
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」 二二九

平野 光雄
明治期国産掛時計談屑 一二一

福田 光治
グリネルあれこれ 中西部のある小さな町 二一

福永 郁雄
村井保固と妻キャロライン 一六四
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（上） 一七五
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（中） 一七六
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（下の一） 一七七
ヴァン・リードと生麦事件の顚末（下の二） 一七八
ヴァン・リードの紀行文
「カルフォルニアから日本まで」（上） 一八一
ヴァン・リードの紀行文
「カルフォルニアから日本まで」（下） 一八二
ある国際結婚の余波 一八七
榎本艦隊へのハワイ亡命勧告（上） 二〇六
榎本艦隊へのハワイ亡命勧告（下） 二〇七

元治元年のルポルタージュ（上） 二一〇
元治元年のルポルタージュ（下） 二一一
「順叔 八戸先生」の消息 二一六
「順叔 八戸先生」の消息（続） 二一七
明治の企業家精神 二三二

藤浦 洸
明治村百感 一〇〇
明治の平戸界隈 八七

藤岡 通夫
明治村の機動性 一
西郷邸と山崎兌さん 一五
父藤岡作太郎を思う（一）「漱石の手紙（一）」 九〇
父藤岡作太郎を思う（二）「漱石の手紙（二）」 九一
父藤岡作太郎を思う（三）「露伴の手紙」 九二
父藤岡作太郎を思う（四）「東圃遺稿」の扉絵 九四
父藤岡作太郎を思う（五）「交友」 九五
明治村百感 ヨハネ教会の背景 一〇〇
谷口吉郎館長葬儀における司会者あいさつ 一〇五
城戸久さんの死を悼む 一一六
座談会「明治村の十五年」 一一七
明治村今昔 一八三・一八四

藤木　宏幸
近代女優の成立　一九五

藤野　恒三郎
明治における細菌学の導入　一二四

藤森　照信
西洋建築点描 6　猿島要塞　一一九

藤森　文雄
明治の川柳　―日本近代化の利益と戸惑い　二五三

二見　秀雄
交友五十余年　一〇五

ブッシュ、ルイス
明治村に坐漁荘を訪れて　九六

古川　明
北里先生にゆかりの医学切手　―コッホ・ベーリング・エールリッヒ―　一二六

ブルム、ポール
人力車　一三

古谷　綱武
札幌の思い出　六

帆足　図南次
幼き日の旅日記　二六

保坂　忠信
藤村県政の風景　一七七

堀田　庄三
続　明治村百感
坐漁荘のことなど　一〇一　一〇五

堀　勇良
西洋建築点描 5　東京商船大学第一、第二観測所（旧商船学校天文観測台）　一一八

堀江　知彦
明治の書　一四三

本多　静雄
土川元夫賞を受賞して　八二
明治村百感　土川さんのこと　一〇〇
谷口さんのこと　一〇五

明治開化の茶会
明治村茶会記　松永耳庵翁を偲ぶ茶会　二〇四
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　二一九
谷川徹三さんと茶会　二二九
明治村茶会帝国ホテル中央玄関席「西天取経」（会記）　二三三
谷川徹三師を偲ぶ茶会　二四〇
明治村茶会座談会「谷川徹三師を偲ぶ」　二五一
明治村茶会「宝暦治水、孤愁の岸」　二五二
明治村茶会座談会「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈上〉　二六四
明治村茶会座談会「宝暦治水を偲ぶ茶会」〈下〉　二六五
第二十七回明治村茶会座談会　二七六
明治村茶会座談会「新・平家物語に因む茶会」　二七六
第二十八回明治村茶会　二八八
明治村茶会座談会「竹田弘庵を偲ぶ茶会」　二八八
第二十九回明治村茶会　三〇〇
明治村茶会座談会「加藤唐九郎を偲ぶ茶会」　三〇〇

本田　正次
紫陽花の話　八四
時代の異端者　九五
明治村百感　一〇〇

本間　正義
美術館の展示と谷口先生　一〇五

町田　誠之
明治の和紙　―杉原紙のこと―　一一二
明治の紙　一一三

松枝　喬
泣菫詩碑建立のころ　一〇五

松尾　靖秋
正岡子規と蕪村　一六六

マッガニガル、レイ
開村十一周年祝辞　六九

松川　英逸
「桃太郎の誕生地」縁起　一〇九

松崎　好
第一回明治村剣道大会報告　八二
第三回明治村剣道大会報告　一〇六

松下　英磨
露伴翁の愛　二四

松島　栄一
師走の寄席風景　―その失われた姿の中に―　一〇二

松田　穣
明治と外国文学 4
明治期におけるフランス文学（二）　一四

松永　亀三郎
座談会「松永耳庵翁を偲ぶ茶会」　二二九

松村　正義
ポーツマスのテーブル（其一）
―日露講和条約締結記念物縁起―　二二五
ポーツマスのテーブル（其二）
―日露講和条約締結記念物縁起―　二二六
ポーツマスのテーブル（其三）
―日露講和条約締結記念物縁起―　二二七

松山　昭治
宋伯胤「日本露天博物館明治村漫歩」
訳者後記　一五八

三木　文雄
明治村内所在古墳について　一六

水谷　八重子
明治村百感　一〇〇

水野　義一
佐橋富三郎のこと　七一

皆川　三郎
乃木将軍と米人記者ウォシュマン　一七六
思い出の小沢欽之助校長　その人、その頃　一九二
在りし日の師弟関係と浅田栄次教授のこと　一九三
硬骨、恩情の碩学　細江逸記博士（前）　一九九
硬骨、恩情の碩学　細江逸記博士（後）　二〇〇
明治村を観て思うこと　二〇四
「自由を求めて戦う日本」（其一）
―英国版日露戦史―　二一一
「自由を求めて戦う日本」（其二）
―英国版日露戦史―　二一二
「自由を求めて戦う日本」（其三）
―英国版日露戦史―　二一三
日露戦争に関する「機密報告」（前）
―日本軍に配属された英国武官による―　二二三

英国で敬愛された日本人　詩人ジャーナリスト 駒井権之助　二四七
英国で敬愛された日本人　詩人ジャーナリスト 駒井権之助（続）　二四八
英国で敬愛された日本人　詩人ジャーナリスト 駒井権之助（続二）　二五一
英国で敬愛された詩人ジャーナリスト　駒井権之助 晩年の苦悩　二五六

宮尾しげを
明治の頬かむり　九六

宮尾 登美子
明治の高知　一一二

宮外 武
明治村の小鳥たち　一九

三宅 重光
明治村百感　所感　一〇〇

三宅 正一
大隈侯あれこれ　二五

宮崎 懐英
山本松次郎のこと　六七

宮永 孝
饗庭篁村とエドガー・ポー　三〇

宮部 甫
明治の異形カメラ　一四一

三輪 正弘
建築のふるさと　一〇五

向井 潤吉
武蔵野雑観　九三
明治村百感　一〇〇

武藤 礼生
最初のフランス文学史　三七

村井 資長
大隈重信を偲んで　二五
新島襄と日本の私学　三六

村井 米子
明治村を見学しながら　七九
子供のころの明治のお正月　九一
後藤象二郎の身がわり道中をした祖母　一一四
六十年むかしの雪山とスキー　一一八

村岡 正明
国産自転車第一号 宮田栄助のこと　二二二

村松 嘉津
美貌の変遷　六
明治の言葉　二六
パストゥールの廟　一二五
ジョルジュ・ビゴー筆の皿絵　一三五
野田さんと「文学散歩」　一七〇

村松 定孝
金沢監獄と瀧の白糸　八一
もうひとりの瀧の白糸　一六二
―「錦染瀧白糸」は鏡花作か？

村松 貞次郎
議院への夢　―妻木頼黄と明治の官庁営繕―　二四四
館長就任のごあいさつ　二五四
竹田弘太郎理事長を悼む　二五八

室生 朝子
想い出　一〇六

茂住　實男
英国人教師のみた明治初期の学生　W・G・ディクソン著『日出づる国』から　一六四

森　銑三
はかない思い出　七
ささやかな夜祭　九七

森　亮
ハーンの読者　―併せて邦訳全集について―　四八

森繁　久彌
村長就任にあたり　二四一
村長ひと言　二四四
竹田さんを偲んで　二五八

森下　肇
「亀甲鶴」の研究　―明治の酒造―　一九〇

森中　章光
新島襄と徳富蘇峰　三六

森本　謙三
土川賞受賞の感謝　一〇八

木村毅先生を悼む　一一四

八木　佐吉
ぐらんとひのき　ぐらんとぎょくらん　一九

八木　福次郎
近代文学の味　文学にちなんだ菓子　二〇
野田宇太郎さんの文学碑　三〇〇

安岡　昭男
工部大学校の開校式　二〇九

矢野　二郎
明治村雑感　八二

矢野　峰人
私の明治　八九
木村毅君の思ひ出　一一四

山浦　誠
最後の原稿　一七〇

山口　格太郎
カツユ　八六

山口　典子
下田歌子と淡海女子実務学校　一七九

山崎　重成
「ブラジル移民住宅」の旧所在地を訪ねて　―明治村からレジストロまで―　一九八

山崎　富治
続　明治村百感　遠くない「明治」　一〇一

山崎　信明
西洋建築点描　1
上田市医師会館（旧上田警察署）　一一〇

山下　英一
グリフィス書簡のこと　一三九

山田　忠男
古いということ　―明治村との因縁―　三
進化論事始めの頃　―同志社ハワイ寮をめぐって―　三二
新島襄と自然科学　―理化学館にて想う―　三六
明治村百感　あの頃のこと　一〇〇

山田　朝一
明治村の夏目漱石初版本由緒　二七
野田先生を憶う　一七〇
『荷風書誌』について　一八七

山田　昌弘
明治の音楽（その一）　八
明治の音楽（その二）　九
明治の音楽（その三）　一〇

山本　和夫
永遠の目　一〇六

山本　俊一
北里柴三郎と東大衛生学　一二四

鎗田　清太郎
「虹」の誌人を悼む　一七〇

湯浅　八郎
民主主義教育家　新島襄先生　三六

油野　良子
新聞記事から見た明治の外国人たち　一一二

湯本　豪一
『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　二五六
『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本　2
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　二五七
『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本　3
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　二五九
『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本　4
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　二六〇
『パンチ』誌のみた幕末、明治の日本　5
—『パンチ』創刊百五十年に寄せて—　二六一
岡本一平の父・竹二郎について　二八六

由良　滋
谷口吉郎先生との絆　一〇五

余合　俊一
続　明治村百感　一〇一

横山　健之輔
東京築地采女橋界隈　一五一
東京築地采女橋界隈（承前）　一五二
アーサー・ロイド英訳　下田歌子女史作詩歌集
「皇国ぶり」のことども　一七九

明治村開村の頃　一八三・一八四

横山　春一
ハワイ移民記念館をめぐる思い出　六
関東大震災と蘆花　一五九

吉井　長三
谷口吉郎先生と柳娯亭　一〇六

吉江　知養
明治村に刑事法廷を見る　八五

吉岡　芳子
デカメロン上陸の日　四一

吉川　文子
谷口先生と吉川英治記念館　一〇六
明治村茶会座談会
「新・平家物語に因む茶会」　二七六

吉田　直哉
シロネズミの碑　一〇六

吉田　光邦
明治村にのぞむ　五

吉武　好孝
明治時代と翻訳・翻案　―近代化の歩み―　一七
翻案の明治　三四
ラフカディオ・ハーンの功罪について　四八
ロングフェローと明治日本　七三
明治のモラル　今のモラル　八〇

吉野　俊彦
新島襄と富田鉄之助　三六

吉原　政智
谷口吉郎さんの追憶　一〇五

劉　寒吉
明治の風情　九一
谷口吉郎先生と九州　一〇五
正月今昔　―北九州の場合―　一一五
野田君の文学精神　一七〇

料治　熊太
思い出は佗し、されどまた楽し　八

早稲田　稔
下水道導入とR・H・ブラントン　一四六
日本人初の下水道設計者　三田善太郎　一五二

渡辺　晏孝
大店　―明治の風物―　一六
明治の頃の初午祭　二三
明治の街の物売り　二七
明治の子供の遊び　三二

渡辺　茂雄
明治の女官歴訪記〈一〉　九
明治の女官歴訪記〈二〉　一〇
明治の女官歴訪記〈三〉　一一
明治の女官歴訪記〈四〉　一二

渡部　英雄
池田菊苗の一挿話　三五
漱石・寅彦・柳田国男　五三
寺田寅彦と生物三角形　七〇
武田久吉のこと　一三二

明治村通信総目次　第一号～第三〇〇号
平成八年三月三十一日発行
編集・発行
博物館明治村
〒四八四　愛知県犬山市内山一番地
電話　〇五六八―六七―〇三一四
東京事務所
〒一〇二一　東京都千代田区紀尾井町三番二十三号
文藝春秋ビル新館七階
電話　〇三―三二六三―五五六六